

国際ロータリー第2750地区 2025-26年度

財団セミナー



国際ロータリー第2750地区 2025-26年度
財団セミナー

ご挨拶
田中 靖 ガバナー



国際ロータリー第2750地区 2025-26年度

財団セミナー

ご挨拶

皆川 明良 財団委員長



国際ロータリー第2750地区 2025~26年度

財団セミナー

第1部

ロータリー財団を知る・現状を知る



2026.2.2 財団セミナー

「ロータリー財団活動に御理解を」

国際ロータリー第2750地区 2025～2026年度
ロータリー財団委員会

委員長 皆川明良
(東京城西ロータリークラブ)



国際ロータリー第2750地区 2025～2026年度 ロータリー財団委員会

財団委員会の構成

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1. 資金推進委員会 | (須田 宏樹委員長) |
| 2. 資金管理委員会 | (横山 宗祐委員長) |
| 3. 補助金委員会 | (勝山 宏則委員長) |
| 4. 奨学・学友・VTT委員会 | (酒葉 乃里子委員長) |
| 5. ポリオプラス委員会 | (尾関 勇委員長) |
| 6. ロータリー平和フェローシップ委員会 | (蓮見 雅則委員長) |

国際ロータリー第2750地区

2025～2026年度 ロータリー財団委員会

1. 資金推進委員会のポイント

- ・年次基金・恒久基金・ポリオプラスなどの寄付
- ・財団への寄付目標の理解
- ・寄付3年後の各クラブへの補助金還元の理解

2. 資金管理委員会のポイント

- ・MOUの提出
(Memorandum of Understanding)
- ・申請・報告の遵守

国際ロータリー第2750地区 2025～2026年度 ロータリー財団委員会

3. 補助金委員会のポイント

- ・地区補助金(DG),グローバル補助金(GG)の受付管理
- ・支給条件と補助金対象活動の理解

4. 奨学・学友・VTT委員会のポイント

- ・GGを利用した奨学生の募集・選考・留学支援
- ・帰国した奨学生の学友会のサポート
- ・VTT(職業研修チーム)の派遣

(Vocational Training Team)

国際ロータリー第2750地区 2025～2026年度 ロータリー財団委員会

5. ポリオプラス委員会のポイント

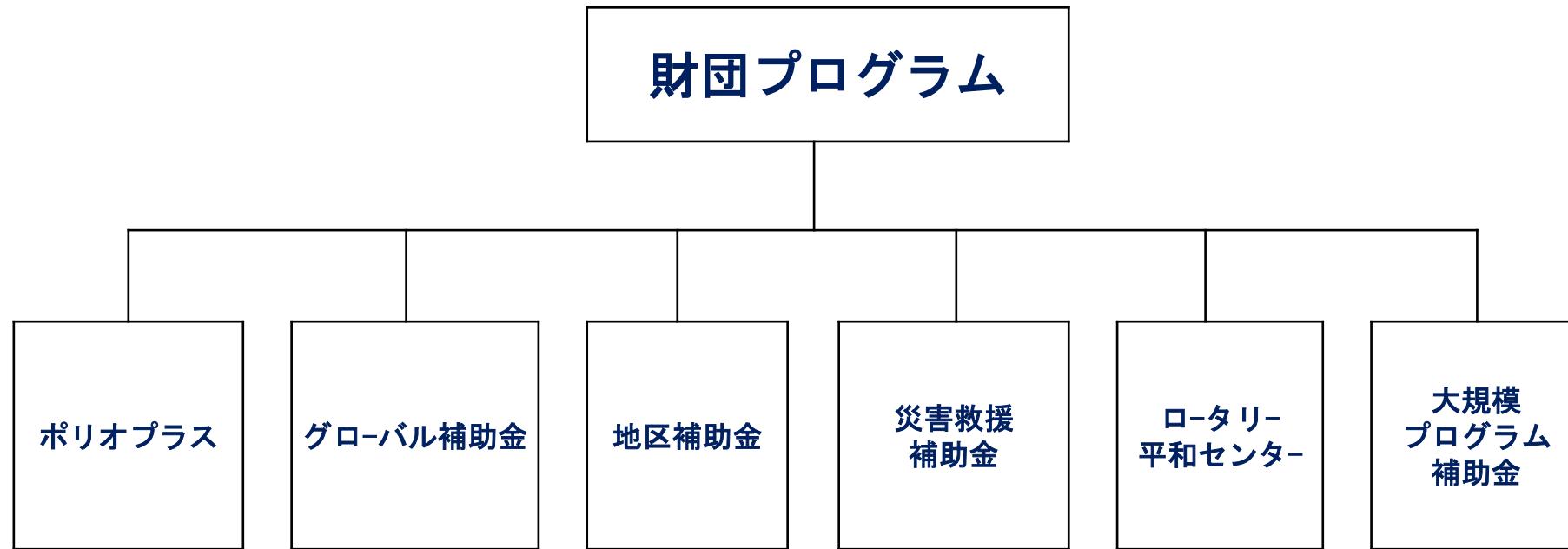
- ・ ポリオ根絶の広報
- ・ ポリオディの理解と開催
- ・ ポリオ基金への寄付 (Polio Plus Society PPS)
 - ・ 毎年100ドルの寄付誓約

6. ロータリー平和フェローシップ

委員会のポイント

- ・ 平和、紛争解決分野の専門能力の習得を目指す
学生への支援 (国際基督教大学)
- ・ 地区からのDDF寄贈の資金でまかなう

ロータリー財団の基本的なプログラム



※青少年交換留学生、インターラクト、ロータリアクト、
RYLA、米山奨学生等は、ロータリー財団のプログラム
ではありません。

ポリオプラスプログラム



ポリオとは

- ・正式名称「急性灰白髄炎」、一般名「脊髄性小児麻痺」
 - ・ポリオウイルスによって、人から人へのみ感染する。
 - ・ウイルスには自然界に存在する野生株ウイルスと人工的に作られたワクチン株ウイルスがある。
 - ・手足が麻痺、筋肉が萎縮して極端に細くなる。呼吸筋が侵され自発呼吸が出来なくなる事もある。
 - ・治療法はなくワクチンによる予防のみが有効。
- • • 1985年よりロータリーがポリオ根絶のためのプログラムの開始

補助金プログラム



地区補助金



グローバル補助金



大規模プログラム補助金



災害救援補助金

- ・ **地区補助金**や**グローバル補助金**を利用して人道的プログラム、教育的プログラム、環境プログラムなどが行われる。
この2つの補助金が私たちの最も身近な補助金である。
- ・ **大規模プログラム補助金**とは、既に成果を挙げているより大きく長期的な活動を支援するものである。
- ・ **災害救援補助金**とは、自然災害や紛争により被災した地域における救援及び復興活動を支援するものである。

地区補助金とグローバル補助金

・・・次年度より内容の変更があります

地区補助金 DG (District Grants)

- ・予算規模：約 **3,000～4,000** ドル
- ・DDF（地区財団活動資金）から支給。
- ・クラブからの拠出はお願いするが、その額は問わない。
- ・短期（年度内）に完結するプロジェクトである事。
- ・人道的、教育的、環境プロジェクトである事。
- ・クラブは年に1回しか申請出来ない。

グローバル補助金 GG (Global Grants)

- ・予算規模：**20,000～30,000** ドル
- ・DDFとWF（国際財団活動資金）から支給。
- ・支給額はクラブの拠出額によって変動。
(DDFから10倍、WFから8倍)
- ・実施国と支援国2つの提唱者が必要。
- ・長期的で持続可能であり、且つ測定可能な目標を有している事。
- ・7つの重点分野に関わるプロジェクトである事。
- ・クラブは年に10回の申請が出来る。

7つの重点分野



- 平和構築と紛争予防
- 疾病予防と治療
- 水と衛生
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 地域社会の経済発展
- 環境

災害救援補助金



ウクライナ救援基金 パキスタン洪水救援基金 トルコ・シリア災害救援基金

- ・現地で水、食料、医療品、衣類などを難民や被災された方々へ提供するために使用されます。
- ・通常の年次基金への寄付と同じようにポールハリスフェローの認証の対象になりますし、税制上の優遇措置を受けることも出来ます。

奖学 · 学友 · VTT

Rotary International District 2750
The Rotary Foundation Scholarship Committee

国際ロータリー 第2750地区 2021年 秋入学対象
ロータリー奨学生募集

ロータリークラブでは、国際社会で活躍を志す、新世代の人たちを応援しています。




留学先是世界160ヵ国の大学院、奨学生金交付期間は1年間です。

この制度は、奨学生が海外留学を通じて国際理解と経験に努め、その経験と視野を持って、ロータリーが掲げる6つの重点分野に必要な知識と学力を究め、国際社会で貢献して頂く事を目的としています。

2750地区 ロータリー奨学生募集 検索

●応募開始 2020年7月1日(月)
●応募締切 2020年10月31日(木)
●選考実施 2020年11月14日(土)
●応募資格
- 2750地区内に在籍する中学生以上または年齢相当であること。
- その間の年間の成績が優秀であることを示す評議書であること。
- ロータリーラボの受講料と宿泊料金等の費用を負担すること。
- 留学の目的であることを。

●報酬の範囲
- 留学の旅費、宿泊料金、食事代、学費等の費用を負担すること。
- ロータリーラボの受講料と宿泊料金等の費用を負担すること。

お問い合わせは、農林水産省ロータリーホームページをご覧ください。
(上記ホームページをご覧ください。)

TEL. 03-3436-2750
FAX 03-5472-2750

国際ロータリー 第2750地区
ロータリーフルボ委員会
奨学生FVT委員会
〒100-0011 東京都港区港南二丁目6-15
黒崎ビル2階

- ロータリー奨学生：1947年、ロータリー財団最初のプログラムとして発足

- VTT (Vocational Training Team) : 職業研修チーム
2010年に発足

- ・ロータリー財団学友会：ロータリー財団のプログラムに参加した経験のある人々の組織



元難民高等
弁務官の緒
方貞子さん
もOBです。



宇宙飛行士の山崎直子さんもOBです。

ロータリー平和センター プログラム

世界平和と開発の担い手となる人材を育て、平和推進者の世界的ネットワークを築く事を目的とした奨学金（平和フェロー）プログラム。

このプログラムは、2002年、ポール・ハリス没後50周年を記念して創設されたポリオ根絶に次ぐ重要なプログラムである。

（当初はロータリーによる平和大学設立構想であった）



ロータリー財団 認証 1 / 2

認証の分類

- ・ ポール・ハリス・フェロー (Paul Harris Fellow PHF)

年次基金、ポリオプラス他に累計1,000ドル以上寄付した方

- ・ ベネファクター (Benefactor)

恒久基金への寄付または誓約額1,000ドル以上の方

- ・ メジャードナー (Major Donor MD)

累積寄付の合計 1万ドル以上で個人又はご夫妻に対して

- ・ アーチ・クランフ・ソサエティ (Arch Klumph Society AKS)

累積寄付額が25万ドル以上で個人又はご夫妻に対して

ロータリー財団 認証 2 / 2

認証の分類

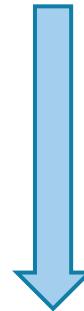
- ・ ポール・ハリス・ソサエティ (Paul Harris Society PHS)
年次基金、ポリオプラス、財団承認の補助金プロジェクトに一括でも合計でも毎年1,000ドル以上の支援をした方。
現在、2750地区では259名がメンバーでPHSの晩餐会が毎年開催されます。
- ・ 遺贈友の会 (Bequest Society)
遺産計画で10,000ドル相当以上を恒久基金としてご寄付を誓約された個人又はご夫妻の方
- ・ レガシーソサエティ (Legacy Society)
恒久基金に100万ドル以上の寄付（遺贈）した個人又はご夫妻の方

シェア・システムによって、運用後の寄付は配分

寄付した
三年後

WF (World Fund)
国際財団活動資金

グローバル補助金(GG) 他



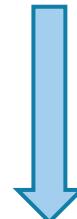
世界中のロータリークラブで使われる

47.5% 47.5%
シェア

年次基金と恒久基金の収益金は、この2つの活動資金にシェアされ、寄付年度の3年後にいろいろなプロジェクトに使われます。5%は財団の管理費。

DDF
(District Designated Fund)
地区財団活動資金

地区補助金(DG)、グローバル補助金の地区負担分、RI第2750地区ロータリー奨学金、ロータリー平和フェローシップ、ポリオ・プラスへの寄付 他



地区内のロータリークラブで使われる

私たちの寄付が、世界中で使われています。

国際ロータリー第2750地区

寄付の地区目標

田中年度
武藤年度
とも

① 年次基金への寄付	1人	\$ 150
② ポリオプラス基金への寄付	1人	\$ 30
③ 恒久基金（ベネファクター）		
会員数99名までのクラブは	1名	(\$ 1000)
100名以上のクラブは	2名以上	(\$ 2000)

3冠達成 ガバナー賞！

3年後の地区補助金支給額をアップします

ロータリー財団 2024-25年度 6月末 地区別寄付報告 () (単位:米ドル)

地区	会員数	一人当たり 年次基金	年次基金	ポリオプラス	恒久基金	その他の基金	合計寄付額	前年度 同月比
2750	4,495	173.79	781,170.37	190,088.89	135,287.70	23,916.73	1,130,463.69	100%
2760	4,485	165.15	740,719.03	223,305.57	58,556.92	11,420.80	1,034,002.32	104%
日本	81,985	139.68	11,452,023.49	2,865,174.55	2,400,964.43	231,067.15	16,949,229.62	103%
世界	1,134,303	116.69	132,364,236.74	33,487,568.33	46,190,535.48	41,404,594.32	253,446,934.87	

★ 2750地区の寄付額は、日本全体の6.6%にあたり全地区でトップの割合

ロータリー財団 2025-26年度 11月末 地区別寄付報告 (単位:米ドル)

地区	会員数	一人当たり 年次基金	年次基金	ポリオプラス	恒久基金	その他の基金	合計寄付額	前年度 同月比
2750	4,452	91.56	407,611.47	101,030.25	219,286.60	5,330.00	733,258.32	107%
2760	4,516	101.30	457,483.46	147,933.55	28,912.60	3,184.73	637,514.34	100%
日本	81,283	64.21	5,219,327.88	1,331,990.18	934,201.71	70,149.04	7,555,668.81	90%
世界	1,124,681	41.42	46,578,771.44	14,080,001.34	30,706,005.96	10,606,119.63	101,970,898.37	

ロータリーカードの種類と概要

	マスターカード個人	マスターカード	ダイナースクラブ
	スタンダード / ゴールド	法人	クラブカード / 個人
デザイン	 		 
年会費	無料	10,000円	3,000円
ポリオ根絶支援資金	利用額 0.30%	利用額 0.30%	利用額 0.50%
	年会費 3,000円	年会費 1,500円	年会費 0.30%
利用額	2019–20年度 2020–21年度	20億4,600万円 17億 349万円	5,000円
ポリオ根絶活動資金額	2019–20年度 2020–21年度	1,134万円 949万円	

カードの利用例

活動費
交通・宿泊
ETC

通信費などの
事務局運営費

例会運営費

地区大会
セミナー施設料

用途に応じたカード利用



人頭分担金

財団寄付金

ロータリー
グッズ購入費

国際大会
登録料

国際ロータリー第2750地区
2025～26年度 ロータリー財団委員会



Doing good in the World ! 世界でよいことをしよう !

ご清聴ありがとうございました。

ロータリー財団委員会の活動全般につきましては、地区のホームページに掲載されております「ロータリー財団ハンドブック」（次年度はPDF版）にて説明いたしておりますのでご参照ください。



ロータリー財団 資金推進委員会

2025-26年度委員長 須田宏樹（東京昭島中央RC）

寄付-資金推進委員会

- 財団プログラムの主な資金源となるのが年次基金、恒久基金、
ポリオプラス基金の地区目標に向けてご寄付をお願いしております。
- 各クラブの会長、幹事、財団委員長の方に財団の内容を深く
ご理解頂き財団委員会にご協力をお願致します



寄付-資金推進委員会

ロータリー財団寄付の分類

- 年次基金

平和の推進、教育支援などの活動に使われます

- 恒久基金

恒久基金は元金は維持され、運用益を使用しWFとDDFにも配分されます

- ポリオプラス

ポリオ根絶活動の支援

- ロータリー災害救援基金

災害救援、復興活動に使用

- その他の基金

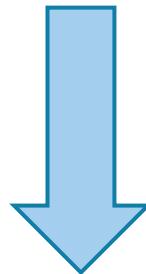
グローバル補助金等への拠出、平和センター指定寄付など



シェア・システムによって、 年次基金は配分されます

WF (World Fund)
国際財団活動資金

グローバル補助金 (GG) 他

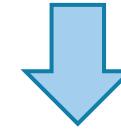


世界中のロータリークラブで使われています。

47.5 : 47.5
シェア

DDF (District Designated Fund)
地区財団活動資金

地区補助金 (DG)
グローバル補助金の地区負担分、
RI第2750地区ロータリー奨学金、ロータリー平和フェローシップ、ポリオ・プラスへの寄付 他



地区内のロータリークラブで使われています。

すべての寄付が、世界中で使われています。



寄付-資金推進委員会

寄付実績25年7月～12月

- 年次基金100%以上達成 33クラブ
- ポリオプラス 49クラブ
- 恒久基金 26クラブ
- 3部門達成 11 クラブ



寄付-資金推進委員会

財団室NEWS2月号

ロータリー財団 2025-26年度 12月末 地区別寄付報告 (単位:米ドル)

地区	会員数	一人当たり 年次基金	年次基金	ポリオプラス	恒久基金	その他の基金	合計寄付額	前年度同月比
2750	4452	106.33	473,361.00	144,941.29	223,504.66	5,330.00	847,136.95	106%
2760(愛知)	4516	125.76	567,910.80	163,505.04	35,019.78	3,251.08	769,686.70	106%

寄付-資金推進委員会

- ロータリー財団では、個人やクラブからのご寄付に対して感謝の気持ちを表すために、さまざまな認証プログラムがございます

認証の分類

- ・ポール・ハリス・フェロー (Paul Harris Fellow [PHF](#))

年次基金、ポリオプラス他に累計1,000ドル以上寄付した方

- ・ベネファクター ([Benefactor](#))

恒久基金への寄付または誓約額1,000ドル以上の方

- ・メジャードナー (Major Donor [MD](#))

累積寄付の合計 1万ドル以上で個人または御夫妻に対して認証されます

- ・アーチ・クランフ・ソサエティ(Arch Klumph Society [AKS](#))

累積寄付額が25万ドル以上で個人または御夫妻に対して認証されます



寄付一資金推進委員会

認証の分類

- ・ポール・ハリス・ソサエティ (Paul Harris Society PHS)

年次基金、ポリオプラス、財団承認の補助金プロジェクトに
一括でも合計でも毎年1,000ドル以上の支援をした方



- ・ポリオプラス・ソサエティ (Polio Plus Society PPS)

毎年最低100ドル以上をポリオプラスへご寄付いただくことを誓約していただいた方



- ・遺贈友の会 (Bequest Society)

遺産計画で10,000ドル相当以上を恒久基金としてご寄付を誓約した個人または夫妻の方

- ・レガシーソサエティ (Legacy Society)

恒久基金に100万ドル以上の寄付(遺贈)した個人またはご夫妻の方

寄付一資金推進委員会

- 地区表彰について

RI第2750地区では、2025-26年度も以下の3つの表彰を行ないます。

- 寄付総額上位3位までのクラブ

- 年次基金一人あたりの平均寄付額上位3位までのクラブ

- ロータリー財団への地区寄付目標 3部門達成クラブ

(年次基金、恒久基金、ポリオプラス基金)



ロータリー財団 寄付

ロータリーカードでの寄付

- ・オリコ個人利用金額 × 0.3%



- ・オリコ法人利用額 × 0.5%

- ・ダイナースクラブカード利用金額 × 0.3%



- ・ダイナース個人カード利用金額 × 0.3%



ポリオ根絶活動資金へ

寄付-資金推進委員会

・ポリオプラス基金への寄付 1人 \$30

・年次基金への寄付 1人 \$150

・恒久基金（ベネファクター）

会員数99名までのクラブは 1名 (\$1000)

100名以上のクラブは 2名 (\$2000)



Doing good in the World ! 世界でよいことをしよう !



補助金委員会

2025 - 26年度委員長 勝山宏則（東京品川RC）



補助金委員会の役割

- ・私たちはクラブが地元社会や海外で様々な奉仕プロジェクトを実施するために地区補助金やグローバル補助金を提供することで支援しています。また、補助金事業を奨励することによってロータリー財団の存在意義、ロータリー財団への寄付の重要性を喚起しています。
- ・第2750地区はより多くのクラブに補助金を利用いただくことを目指しています。他地区と比較しても補助金利用率は大変に高いです。
- ・補助金委員はクラブの奉仕事業をサポートします。

2024-25年度の実績報告

補助金申請金額・件数

DG	60件	177,700 \$	1,955万 (三浦G年度)
	65件	187,106	2,432 (富澤G年度)
	65件	206,311	2,743 (宮崎G年度)
	74件	215,336	3,306 (伊藤G年度)

74件 195,005 2,827万円 (田中G年度)

GG 2024-25 北マリアナ諸島連邦区における遠隔医療の支援 (西RC)

ウェーンノイ病院 医療機器寄付プロジェクト (世田谷RC)

ラファエル・ナヌム・ホームレスクリニック慢性疾患管理支援事業 (クロスシティRC)

シュリ・プラヤグダム・トラスト慈善病院への医療機器の寄付 (米山友愛RC)

ロータリー財団奨学生 6名

現年度の経過報告 2025-26年度

- ・ 田中年度 使用できるDDFの総額 506,833 ドル
- ・ 地区補助金 74クラブへ支給 上限219,072 ドル
- ・ 総申請額 30,095,970円 総支給額 28,275,766円 (\$195,005)
- ・ グローバル補助金 既支払分
- ・ GG2577156 モンゴル 図書館 調布むらさき \$20,000
- ・ GG2578001 ルーマニア メンタルヘルス 伊藤G \$10,000
- ・ GG2579191 獎学生 鈴木りゆか \$22,222
- ・ GG2580412 獨立研究者 鈴木良 米山友愛 \$22,222
- ・ GG2580881 獨立研究者 今井響大 \$22,222
- ・ GG2684114 韓国 第2750地区 ファミリケア \$5,000
- ・ GG2684552 韓国 第2750地区 超音波医療機器 \$5,000
- ・ 地区からのDDF寄贈 ロータリー平和センター \$35,000

・ DDF 地区財団活動資金 District Designate Fund

今後の方針

DDFの有効活用に努める

クラブへの公平な分配

ローターアクトクラブ、新設クラブへの奉仕活動振興

他地区とのDDF協力、特に海外の地区

地区DDF寄贈 ポリオプラスと平和センター

新しい分野への活用

寄付を増やしてDDFの増額を目指す

財団資金管理委員会の 役割について

2025-26年度委員長 横山宗祐（東京田園調布RC）



財団資金管理委員会の2つの役割

1. 地区とクラブとの間で締結した覚書
(MOU) の管理
2. 地区補助金 (DG) 報告書のチェック
(事後監査)



ポリオプラス委員会

2025-26年度

国際ロータリー第2750地区ロータリー財団委員会
ポリオプラス委員長 尾関 勇（東京愛宕RC）



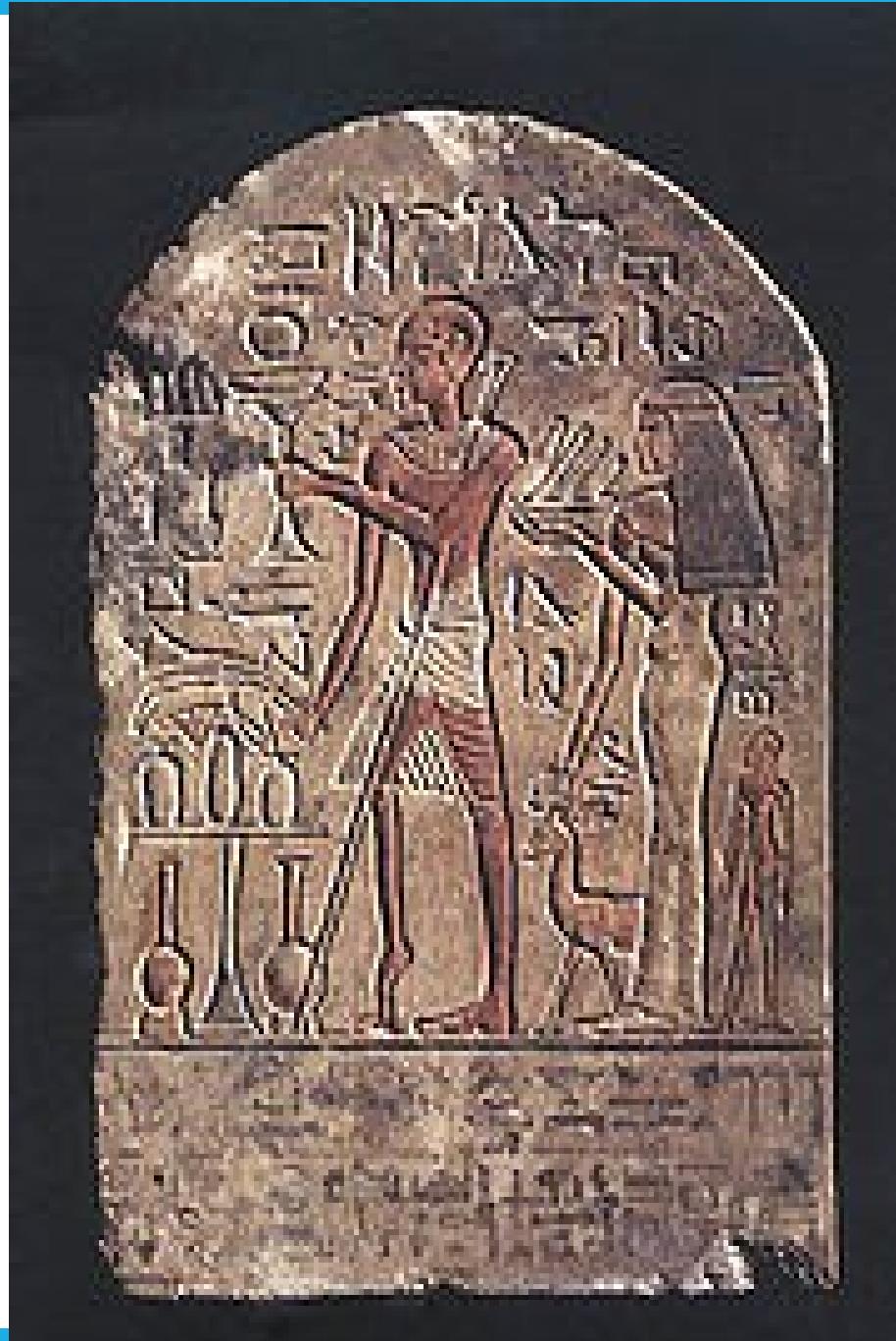
ポリオプラスプログラム

1985年、ロータリーは、全世界で
ポリオの根絶をめざす
「ポリオプラスプログラム」
を設置しました。

ポリオプラスの「プラス」の意味は、最初はチフスや破傷風等の5つの伝染病のことを指していましたが、その後、ポリオの研究によって得ることのできた多くの研究結果のことを指すようになりました。



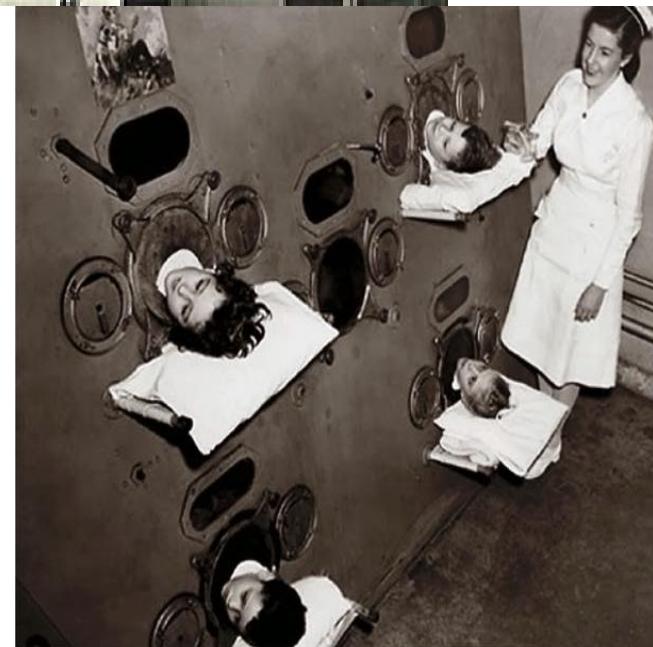
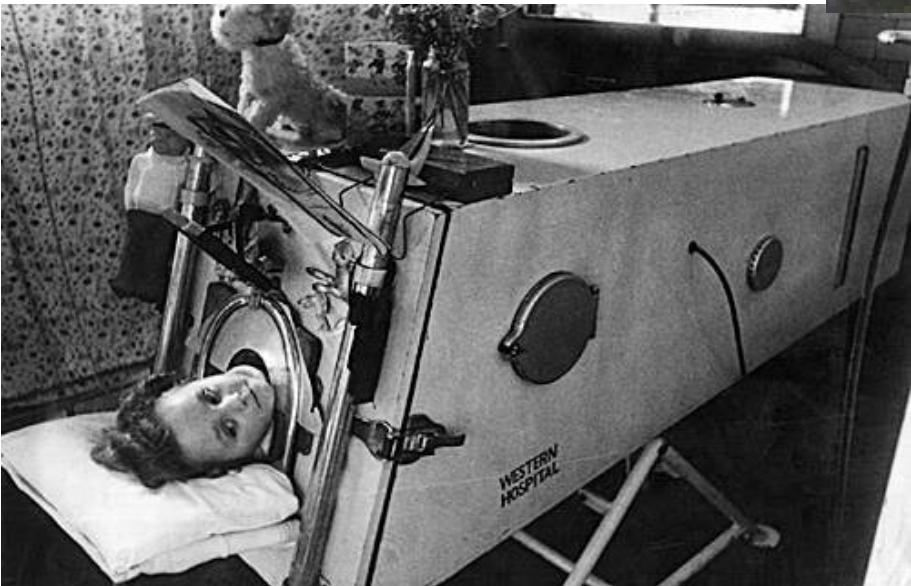
古代エジプト第18王朝
(BC1403~1365)
石碑 (レリーフ)



北海道洞爺湖町
入江貝塚から発掘
縄文時代後期の女性人骨
(約4000年前)







人工呼吸装置（鉄の肺）



ワクチンが普及するまでは年間35万人が感染
していた

フランクリン・ルーズベルト大統領

(1882~1945) 米国大統領で唯一の身体障害者



ポリオとは

- ・正式名称「急性灰白髄炎」一般名「脊髄性小児麻痺」
- ・ポリオウイルスによって、人から人へのみ感染する。
- ・ウイルスには自然界に存在する野生株ウイルスと人工的に作られたワクチン株ウイルスがある。
- ・手足が麻痺、筋肉が萎縮して極端に細くなる。
呼吸筋が侵され自発呼吸が出来なくなる事もある。
- ・治療法はなくワクチンによる予防のみが有効である。
- ・手足が麻痺・日本では1960～61年をピークに、その後ワクチン投与が定期的に行われ、2000年に根絶が宣言される。
- ・2007年の規定審議会で、ポリオ根絶を国際ロータリーの最優先の目標にすることが承認される。





国際ロータリーの ポリオ根絶活動の軌跡（1）

1979年： フィリピンの600万人の子どものためにポリオワクチンを購入、輸送、予防接種を行う。史上初の民間による公共保健事業として最大規模となる。

1985年： 「ポリオプラスプログラム」を立ち上げ、 1億2000万ドルの募金目標を設定する。

1988年： 「ポリオプラスプログラム」へ目標の倍以上となる 2億4700万ドルの募金が寄せられる。 ロータリーのこの成功をきっかけにポリオの根絶に関する決議が世界保健総会により採択され、WHO（世界保健機関） UNICEF（国連児童基金） CDC（米国疾病対策センター） RI（国際ロータリー）が中心となる GPEI（Global Polio Eradication Initiative）

世界ポリオ根絶推進活動が発足される。

国際ロータリーの ポリオ根絶活動の軌跡（2）



1994年：南北アメリカ大陸でポリオ根絶が宣言される。

2000年：オーストラリアから中国まで広がる西太平洋地域においてポリオ根絶が宣言される。→主導されたのが当時WHO責任者の尾身茂先生

2002年：大西洋から中央アジアに及ぶ広大な欧州地域においてポリオ根絶が宣言される。

2006年：ポリオ常在国の数が4カ国（アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン）となる。

2007年：規定審議会において「ポリオ根絶」を全てのプログラムの最優先事項に決定する。

国際ロータリーの ポリオ根絶活動の軌跡（3）



2012年 2007年にビルゲイツ財団よりの1億ドルのチャレンジ補助金を受領しているが、さらにビルゲイツ財団の2億ドルチャレンジに対して、ロータリーは2億2,800万ドルを達成

これ以降もビルゲイツ財団よりロータリーの寄付額の2倍の寄贈が続いている。

2014年： インドを含む東南アジア地域（世界人口4分の1）でポリオ根絶が宣言される。常在国は3カ国となる。

2017年： ナイジェリアが前年常在国から外れるも再び野生型ポリオの発症あり、 常在国は再び3カ国。



国際ロータリーの ポリオ根絶活動の軌跡（4）

2020年：ナイジェリアで野生株のポリオウイルス感染が終息し、アフリカ大陸からの根絶が宣言される。常在国は2カ国となる。

2021年：マラウイで1件感染者が確認される。

2022年：モザンビークで10月4日までに7件の感染者が確認される。また、アメリカ、ニューヨークにて1件の感染者が確認され、イギリスとイスラエルでは下水よりニューヨークと同じ型のポリオウイルスが発見される。

現在では発症者が認められるのはアフガニスタンとパキスタンの二国だけになっていましたが、先日パレスチナ自治区ガザ地区で25年ぶりのポリオ発症者があり、戦闘を休止してワクチン接種を行ったことはみなさんの耳に新しいことと思います。

日本におけるポリオ（1）



- ・明治の後期からほぼ10年おきに流行。
- ・1947年 届出伝染病に指定、正式な調査が始まる。・1960年に大流行、患者数は史上最大の5,606人。
- ・1961年 生ワクチンの安全性が未だ確認されていない中、時の厚生大臣 古井喜美（よしみ）氏の「責任は大臣がもちます」と言う強い決断によりソ連、カナダから生ワクチンを緊急輸入。1300万人を超す児童に一斉投与し劇的な効果を得る。
- ・1960-61年をピークとして急速に減少。
- ・1964年 ワクチンによる定期予防接種開始。



日本におけるポリオ（2）



- ・1965年には発症数わずか76人。これは接種日を決めて全国一斉に投与する NID(National Immunization Day) 方式による効果であり、この方式は後にポリオ根絶活動の中心戦略としてWHOに採用された。
- ・1980年に1名が発症したのが野生株での最後の患者。
- ・1980年代以降のポリオ症例は全てワクチン関連麻痺症例。
- ・2000年 日本におけるポリオ根絶宣言。
- ・2012年 8月 日本の最後のポリオ患者が発症。9月 生ワクチンの投与を中止。全ての予防接種はウイルスの病原性をなくした不活性ワクチンに切り替えられた。以後、新たなポリオの発症はない。



- ・ポリオウイルスによって、人から人へのみ感染する。人から排出された糞便中のポリオウイルスが経口感染により腸の中で増殖、血流に侵入する。
 - ・ポリオウイルスには1、2、3型の3タイプがある。2型は2012年に根絶されており、3型は2015年以来発症していない。
 - ・元々その国に存在していたウイルスを野生株、他の国から運びこまれたウイルスを外来株と言う。野生株のある国を常在国と言う。
 - ・ポリオ患者の40～50%にポストポリオ症候群(PPS)が発生する。
- ・有効な治療法はなく、ワクチン接種による予防のみが有効である。**



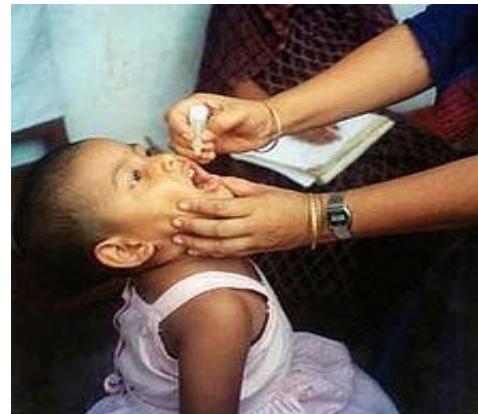
ポリオワクチン

経口生ワクチン

ポリオウイルスの病原性を弱めてつくったワクチン。ポリオに感染した時とほぼ同様の仕組みで強い免疫が出来る。まれにポリオを発症する事がある。

経口投与なので訓練を受ければ資格のない人でも投与出来る。

1960年に承認された。



不活化ワクチン

ポリオウイルスを不活化(=殺し)病原性を無くし免疫つくるのに必要な成分を取り出したワクチン。ウイルスとしての働きはないので、ポリオを発症する事は無い。

注射による投与なので、医師等資格のある人でないと投与出来ない。

1982年にフランスで開発された。日本では2012年承認。



Rotary



END
POLIO
NOW

GPEI: 世界ポリオ根絶推進活動

Global Polio Eradication Initiative



1988年 ロータリーがポリオプラスプログラムに、寄付目標の倍以上である2億4700万ドルを集めたことをきっかけに、世界中の子どもたちにポリオの予防接種を提供し、世界からポリオを根絶する事を目的に設立される。

〈パートナー団体〉 WHO(世界保健機構)
UNICEF(国連児童基金)
CDC(米国疾病対策センター)
RI(国際ロータリー)



World Health Organization

Rotary



U.S. Centers for Disease
Control and Prevention



インドでのポリオワクチン接種活動



インドでは、ポリオ根絶が達成された後も、それを維持するため毎年2回のNIDという全国ワクチン接種日を設けている。人口実態も正確ではないことから合わせて子どもの数も調査する

インドでのポリオワクチン接種活動



野生株ポリオ発症件数の推移



	2025年12月	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
アフガニスタン	9	25	6	2	4	56
パキスタン	31	74	6	20	1	84
モザンビーク	0	0	0	8	0	0
マラウイ	0	0	0	0	1	0
合計	40	99	12	30	6	140
			コロナのパンデミック			

ポリオ根絶宣言

3年間の野生株での ポリオ発症ゼロが証明され、
WHO（世界保健機関）が根絶宣言をして 世界中の
ポリオワクチン接種は終了する。



感染数は99. 99%減少



1988年
流行国125か国
350,000人

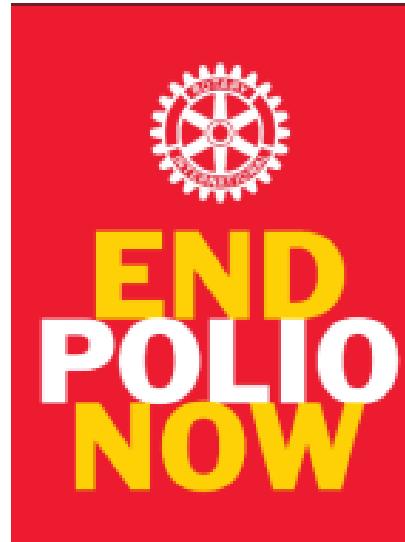


2025年12月31日
流行国2か国 40人
アフガニスタン：9人（前年より△16人）
パキスタン：31人（前年より△27人）



2026年1月31日現在は流行国2か国のうちアフガニスタン：1人パキスタン：
2人のみという結果です(おそらくサーベイランスが行き届いてない)

ポリオプラス委員会からのお願い



一人30ドルのポリオプラス基金へのご寄付

当地区でのポリオプラス基金への寄付目標は一人30ドルとなっております。

当年度寄付実績速報 2025年12月 現在

一人30ドルのポリオプラス基金へのご寄付

当地区でのポリオプラス基金への寄付目標は一人30ドルとなっております。

3部門達成クラブ 11クラブ

(芝・渋谷・恵比寿・愛宕・世田谷・八王子南・八王子北・小金井・三鷹・昭島・Iシティ)

※ポリオプラスへの寄付含めて年次基金・恒久基金ともに目標達成しております。

ポリオプラス目標達成クラブ 49クラブ／98クラブ中



ありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。

The PolioPlus Society ポリオプラス・ソサエティの紹介

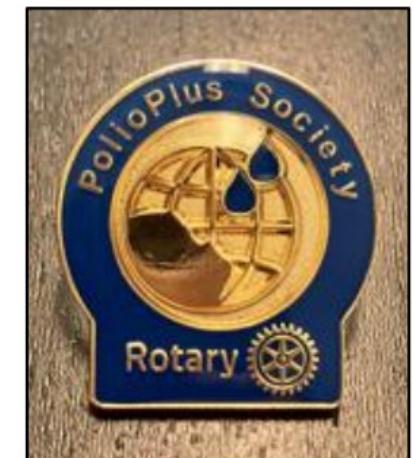


毎年ポリオプラス基金へ100ドルのご寄付をお約束して頂けるロータリアンに登録証とソサエティメンバーのピンバッジをお送りさせて頂きます。

すでに多くの国々のロータリアンが参加して頂いております。

2750地区のメンバーの多くはすでに1人 \$ 30を寄付いただいているので、

残り \$ 70で入会できます。PHS寄付にもカウントされます。



ロータリー財団 寄付



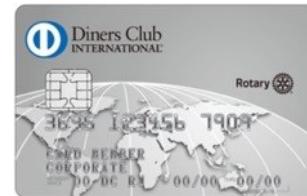
ロータリーカードでの寄付

・オリコ個人利用金額 × 0.3%



・オリコ法人利用額 × 0.5%

・ダイナースクラブカード利用金額 × 0.3%



・ダイナース個人カード利用金額 × 0.3%



ポリオ根絶活動資金へ



ポリオプラス委員会からの5つのお願い

- ① クラブでポリオ撲滅のイベントを行なって下さい。
チャリティーゴルフ、チャリティーコンサート等の後援
- ② 募金箱を活用して下さい。
ポリオプラス委員会でクラブに配布をした募金箱の活用
- ③ 支援企業になって下さい。
ポリオ撲滅支援企業を募集。地区大会等で発表。
- ④ セミナーやイベントに参加して下さい。
- ⑤ 卓話に呼んで下さい。
ロータリー財団のセミナーとは別に、ポリオなどに特化した卓話。



ポリオ根絶チャリティーゴルフ へのご参加

2025年9月18日（木）

青梅GCにて開催
主催 東京立川こぶしロータリークラブ



世界ポリオデー
10月24日

Rotary
東京立川こぶし
ロータリークラブ

世界ポリオデーのご紹介



今年度は、END POLIO NOW ファンドレイジングパーティーを
2025年10月17日金曜日にパレスホテル東京で開催。
100万円を超える寄付が集まり、全額ポリオプラスへ寄付されました。





ロータリー ポリオ根絶アンバサダー 尾身茂先生からのメッセージ

1990年からWHOに勤務。

元世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局長（1999～2009年）

中国含む、西太平洋地域でのポリオ根絶活動を主導し、

2000年に同地域のポリオ根絶認定を実現させる。

このとき日本・インド・米国のロータリアンからの150万ドルの寄付が
呼び水となり不可能と言われたアジアでの根絶を達成。

以降多くの寄付が集まつたことにロータリーへ感謝の表明をいただき以降関係が続いている。

2003年のSARS流行時にはWHOの同事務局で対応を指揮。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック時には、
日本政府の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議副座長、

新型コロナウイルス感染症対策分科会長を務める。

現在、公益財団法人結核予防会の理事長。

根絶に向けての3戦略



① 定期予防接種
(一歳未満)



② 特別予防接種週間
(過去の予防接種歴にかかわらず
5歳以下の小児全員)

急性弛緩性麻痺 (Acute Flaccid Paralysis: AFP) サーベイランスの立ち上げ



③



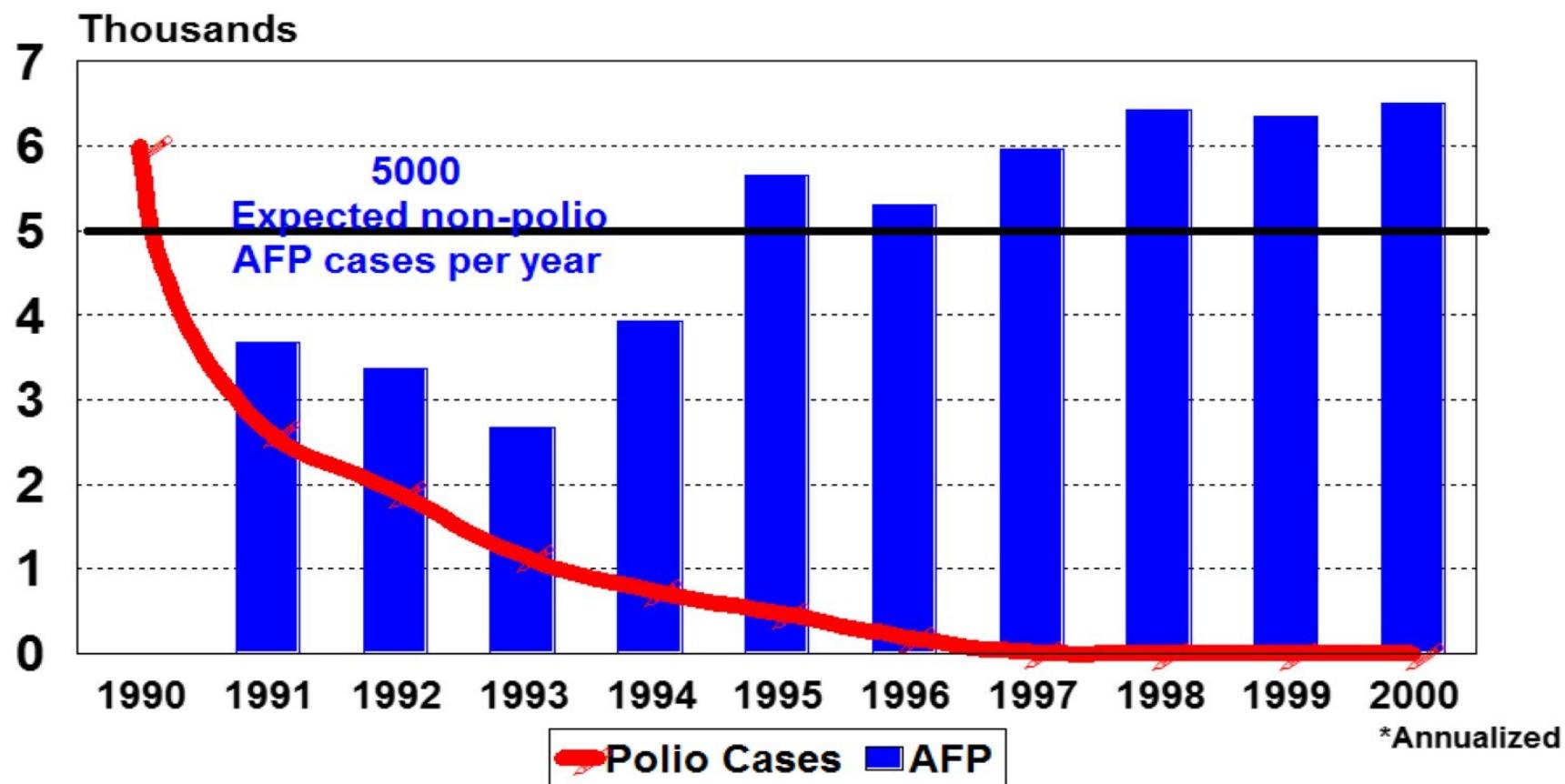
- 1 : 発展途上国では小児麻痺の鑑別診断 困難
- 2 : したがって、すべての急性弛緩性麻痺を報告
- 3 : 同時に便検体採取→WHO指定の検査機関
- 4 : 人口 10 万人に最低 1 例の AFP/年間
- 5 : AFPサーベイランスのメリット
 - ・真の小児麻痺症例の見落とし ↓
 - ・サーベイランスの質の評価が内在



**END
POLIO
NOW**

Polio Cases and Acute Flaccid Paralysis

Western Pacific Region 1990-2000*





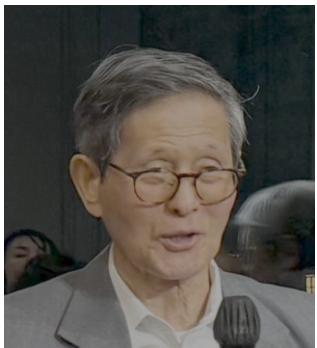
最後の症例 : Cambodia,
発症 3月 19日 1997年





ロータリー
ポリオ根絶アンバサダー
尾身茂先生×田中ガバナー

2月7日 地区大会@立川ステージガーデン
特別対談開催！



14:45ころからです。
お見逃しなく！



ポリオ根絶まであと少し！

ぜひご寄付にご理解いただき
活動して行きましょう！



ご清聴ありがとうございました。

奨学・学友・VTT委員会

2025 - 26年度委員長 酒葉乃里子（東京あけぼのRC）



2026年2月2日

国際ロータリー第2750地区 2025-26年度

奨学・学友・VTT委員会
奨学生、VTTプロジェクト

VTT委員長 酒葉乃里子（東京あけぼのRC）

VTT委員 大友敬（東京世田谷RC）



2024-25年度ロータリー財団奨学生



佐原 希林さん



地域社会の経済発展

海外の貧困問題が顕著な地域や国の
人々のためになる仕事がしたい



ロンドン大学東洋アフリカ研究所
東京八王子東RC

⇒ Kensington & Chelsea RC (RID1130)



東京八王子東RC

⇒ Kensington & Chelsea RC (RID1130)



名村 穂司さん



地域社会の経済発展

状況が厳しい地域で地域経済の発展の見地から
長期的な貧困解決に貢献していきたい



サセックス大学

東京調布むらさきRC ⇒ Midhurst and
Petworth RC (RID1145)



米倉 彩乃さん



平和構築と紛争予防

人種差別を解消し、未然に防ぐ施策を実践
していきたい

ボルドー大学
東京中央新RC

⇒ Bordeaux-Tourne RC (RID1690)



内山 瑞貴さん



平和構築と紛争予防

国際NGOでメディア専門家として紛争後の
社会の再建や紛争予防に貢献する

ニューヨーク市立大学

東京恵比寿RC

⇒ RC of Yonkers-East Yonkers
(RID7230)

2025-26年度ロータリー財団奨学生



鈴木 りゆかさん 平和構築と紛争予防

母子や出産年齢の女性の死亡率を削減し、
より質の高い医療へのアクセスを可能にしたい

エдинバラ大学

東京大崎RC⇒ポートベロRC (RID1320)



今井 韶大さん



基本的教育と識字率向上

一方的に教え込む授業を無くし、学習者中心の授業を行なう教師を増やして学ぶ意欲を持ち続ける人を増やしたい



ブリストル大学
東京井の頭RC⇒ブリストル(ブレックファスト)
RC (RID1100)

堤 万里子さん



平和構築と紛争予防



人権侵害や暴力から逃れて難民となった人々に
尊厳ある生活を取り戻したい

ロンドンスクールオブエコノミクス
東京南RC⇒パトニーRC (RID1130)



田中 祐太郎さん



環境



経済活動が循環自然生態系に与える影響を
可視化して自然環境保全に対する効果的な
インセンティブ・メカニズムを開発したい

オックスフォード大学 東京稻城RC⇒ハッデンハム RC (RID1090)

清元 佑紀さん



環境

異常気象や環境汚染物質が慢性疾患を持つ患者に与える環境疫学に基づき脆弱な人々の健康被害を減らす公共政策を提案したい

ジョージ・ワシントン大学

東京杉並RC⇒ワシントンDC RC (RID7620)



鈴木 良さん



疾病予防と治療

ヒト・動物・環境部門を含む複数の関係者が関与する
ワンヘルスの観点から感染症、とくに熱帯病の有病率を
低減したい。

クイーンズランド大学

東京米山友愛RC⇒ブリスベン
RC(RID9620)



VTT アジェンダ

- VTTとは？
- 立案と申請
- 申請手順
- 注意点
- ケーススタディ : GG2572793 "TRIBAL STAR: Taiwanese delegation visits Japan to study rural medical education and policy system (通称「台湾VTT」)"
 - プロジェクトの概要
 - 実施国側地区・クラブの役割
 - 大変だったこと、心に残ったこと
- 参照資料

Vocational Training Team (VTT)とは？①

- ・専門職業人のグループが海外に赴いてスキルや知識を学ぶ・教える
 - Vocation; 職業訓練、実用的技術を伴う「手に職」的職業 / 「天職」
 - Profession; 高度な専門知識や技術を必要とする職業
 - Occupation; 生計のために従事している職業
- ・指導者チームの派遣・研修生チームの派遣 両方可能
- ・クラブ主導・地区主導 両方可能
- ・グローバル補助金事業

立案と申請

<https://spc.rotary.org/grantresources>

『グローバル補助金ガイド』

『職業研修チーム (VTT)のためのオリエンテーション』

- ・目的
- ・手段
- ・誰が
- ・いつ
- ・どこで
- ・予算

Why?

What?

Who?

When?

Where?

How (much)?



申請手順

<https://spc.rotary.org/grantresources>

- ・裏付け 『グローバル補助金地域社会調査の結果フォーム』
- ・概要 『グローバル補助金研修計画』
『グローバル補助金申請のテンプレート』
- ・効果測定方法 『グローバル補助金：モニタリングと評価の計画について』
- ・パートナー地区
- ・予算 『グローバル補助金計算表』
- ・MOU締結 『協力団体の覚書』『メンバー申請書』
- ・My Grantに入力 (My Rotaryの「補助金センター」から)
- ・報告書 『グローバル補助金報告書テンプレート』

注意点

<https://spc.rotary.org/grantresources>

『ロータリー財団グローバル補助金授与と受諾の条件』 (15ページ)

- ・受領資格のある活動：重点分野、持続可能、測定可能
- ・受領資格のない活動および支出：労働年齢未満の労働、土地・建物の購入
- ・申請要件：プロジェクトサイズに応じた審査者
- ・協力団体
- ・旅行方針：旅行禁止国がある
- ・補助金の資金源：USD30,000 ~ USD400,000
- ・支払い



ロータリー財団 グローバル補助金 授与と受諾の条件

グローバル補助金は、ロータリーの重点分野(「平和構築と紛争予防」「疾病予防と治療」「水と衛生」「母子の健康」「基本的教育と識字率向上」「地域社会の経済発展」「環境」)において持続可能、測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動に資金を提供する。グローバル補助金は、人道的奉仕活動、大学院レベルの奨学生、職業研修チーム(専門職業に関係する研修を提供するチームや研修を受けるチームを海外に派遣)に活用できる。

ロータリー財団は、内容をより明確にし、方針の変更を反映させるために、この授与と受諾の条件をいつでも修正することができます。2025年9月の変更には以下が含まれる：

- ・ロータリーの持続可能性の定義を更新(セクション 1「受領視覚のある活動」を参照)
- ・ロータリーの青少年保護方針へのリンクを更新(セクション 1「受領資格のある活動」を参照)
- ・補助金を利用した物品の販売収益は、地区、ロータリークラブ、ローターアクトクラブ、またはそれらの会員に利益をもたらしてはならないことを明確化(セクション 2「受領資格のない活動および支出」を参照)
- ・モニタリングと評価の活動に関連する海外渡航費の支払いに補助金資金を使用できないことを明確化(セクション 2「受領資格のない活動および支出」を参照)
- ・奨学生は留学国の国民であってはならないことを明確化(セクション 3「申請要件」を参照)
- ・協力団体の定義の更新およびその義務を明確化(セクション 4「協力団体」を参照)
- ・国際ロータリー・トラベルサービスへの言及を削除(セクション 5「旅行方針」を参照)

日本語(JA)

ケーススタディ: GG2572793 “TRIBAL STAR: (通称「台湾VTT」)”

- 目的 (Why?) : 台湾へき地の医療人材を定着させ、地域医療を向上
- 手段 (What?) : へき地医療制度で先行し、国民性が似る日本の制度を学ぶ
- 研修生 (Who?) : 地域医療に力を入れる台湾の大学医学部教員、院生ほか
- いつ (When?) : 2025年7月～8月に研修、10月にシンポジウムで報告
- どこで (Where?) : 公益社団法人 地域医療振興協会（東京）
神戸大学大学院医学研究科（神戸）
兵庫県内へき地の医療施設（新温泉町、朝来市）
- 予算 (How much?) : 提唱地区RID3481、協力地区RID3610 計USD94,000

プロジェクトの概要

グローバル補助金の申請

補助企画号
GG2572793

状況
作成中

2024/7/26

2024 VTT Working Group ミーティング(I) 記録

日時・形式: 2024年7月26日 10:00 - 11:00 JST via Google Chat

参加者(5): Kevin Lim, Healthy Liou Governor of RID3481, Fan-Yun, 大友敬、酒井乃里子

次回日程: 2024年8月12日(祝)9:00-10:00 JST

論点・合意事項:

- 目的・内容
自治医科大学で遠隔医療を学ぶため、12名のグループを台湾から派遣したい。

計画しているプロジェクトの種類
Vocational training team
教育プログラム、また、海外に赴いて現地の人びとに研修を行う／現地の人びとから研修を受ける専門職業人チームを支援することによって、地域社会の人びとのスキルを高めるための研修

Primary Contacts

Name	Club	地区	提唱者	Role
Takashi Otomo	Tokyo-Setagaya	2750	ロータリー実施面倒 ラブ	
YANG ZIH JYUN	Taipei Ivy	3481	ロータリー援助面倒 ラブ	



台湾VTT “部落の星” の概要

- ・ 台湾の第3481地区と姉妹地区関係にある第2750地区との共同プロジェクト
- ・ 日本側ホストクラブ 東京世田谷ロータリークラブ 洪崇富会長
- ・ 台湾側ホストクラブ 台北長春扶輪社 楊子軍社長 (Rotary Club of Taipei IVY)
- ・ 台湾側の職業訓練チームを日本に派遣、2つの協力団体による研修(東京及び神戸、兵庫のへき地での実習を含む)を受講
- ・ 10月26日 台北で研修報告会とシンポジウムを開催
- ・ チームメンバーは、医師、看護師、大学の教授、大学院学生の混成チーム(11名)
- ・ 日本側役割 協力団体の探索と交渉、研修生の受け入れ、諸々のお世話
- ・ 台湾側役割 現地調査の実施、プロジェクト計画の立案、資金の管理、研修生の人選
- ・ プロジェクト予算 94,000ドル (約1,400万円)
- ・ 7つの重点分野のうち「疾病予防と治療」に該当

プロジェクトの背景 自治医科大学の独自の仕組み

自治医科大学

1972年設立(栃木県下野市)

へき地医療と地域医療の充実が目的



独自の仕組み

47都道府県が運営費を負担

各都道府県が2名から3名の入学者を選抜。

卒業生は、出身地の知事の指定する地域の医療機関に計9年間勤務(うち4.5年間はへき地勤務)

上記義務を履行すると大学6年間の学費(約3,000万円)が免除される

卒業生約5,000人のうち、1,500名(約3割)がへき地の医療機関で勤務

協力団体1 公益社団法人 地域医療振興協会 (JADECOM) 概要

Facility operation

- from Hokkaido to Okinawa -



To enhance community medicine in all over Japan, JADECOM will do its best to cooperate with each other and to utilize its resources.

Meeting diverse needs for community medicine

JADECOM operates hospitals, clinics, and complex facilities in various communities in all over Japan. JADECOM meet the needs of those communities, with hospitals which provide emergency treatment in urban areas, hospitals which take a major role in communities, facilities which provide comprehensive care in communities, and clinics in mountainous rural areas and isolated islands.

JADECOM will do its best with each local government that are struggling to secure medical care, to provide high-quality medical services.

JADECOM wants to support the life of people in their communities and revitalize those communities by operating medical facilities.

地域医療振興協会 (JADECOM)

自治医科大学の卒業生が中心になり1986年設立された
へき地医療のための団体

・26病院、41診療所、10複合施設、8介護老人保健施設、2看護専門学校を運営

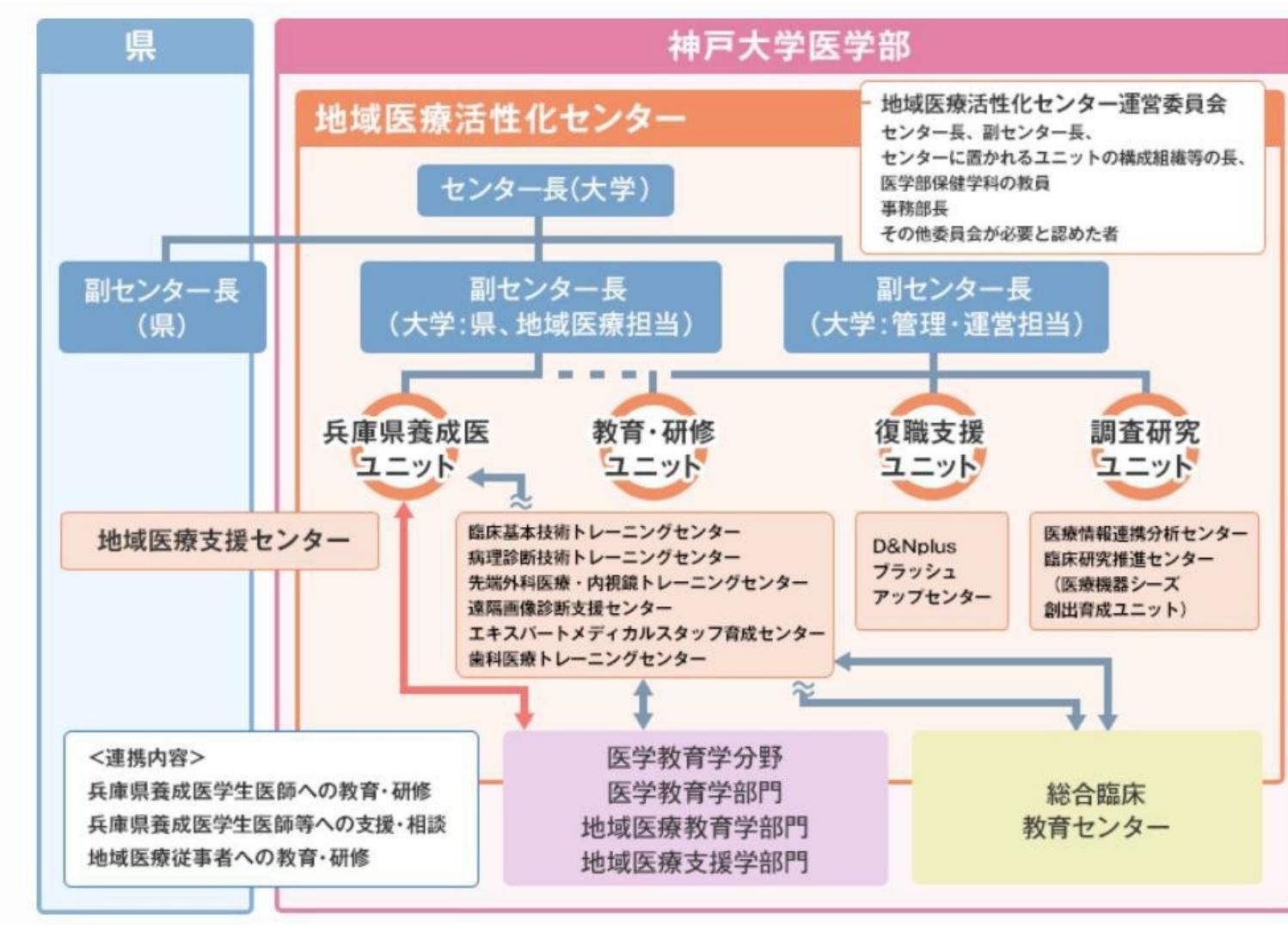
・うち指定管理69施設、直営16施設

・従業員 約10,000名

・病床数 5,300床

・医療収入 1,550億円

協力団体2 神戸大学医学部 地域医療活性化センター 概要



地域医療活性化センター

2014年4月 設立

地域医療を担う医療人材の養成をミッションとする

医師、看護師、エキスパートメディカルスタッフ、歯科医師、管理栄養士など多職種を対象とした研修を実施

へき地を含む県内各地で活躍する地域包括ケアを支えるチーム医療人材を育成

臨床基本技術トレーニングセンター、遠隔画像診断支援センター等各種支援センターを併設

研修スケジュールの概要

VTTプロジェクト 全体スケジュールの概要			
日付	曜日	プログラム	場所
2025/7/29	火	JADECOM 研修初日 4講義	平河町 公益社団法人 地域医療振興協会
2025/7/30	水	JADECOM 研修2日目 2講義+視察	
2025/7/30	水	午後 台東区立台東病院視察	台東区立台東病院 地下1Fから8Fまで
2025/7/31	木	神戸大学医学部 地域医療教育学部門 2講義	神戸大学医学部 地域医療活性化センター
2025/8/1	金	神戸大学医学部 地域医療教育学部門 2講義 1視察	神戸大学医学部 地域医療活性化センター
2025/8/5	火	兵庫のへき地で2グループに分かれ研修(1日目)	グループA 朝来市、グループB 新温泉町
2025/8/6	水	兵庫のへき地で2グループに分かれ研修(2日目)	
2025/8/8	金	芝公園ガバナー事務所にて 中間発表会	(昼)フェアウェルランチ会
2025/10/26	日	台北市にて 最終報告会&シンポジウム	

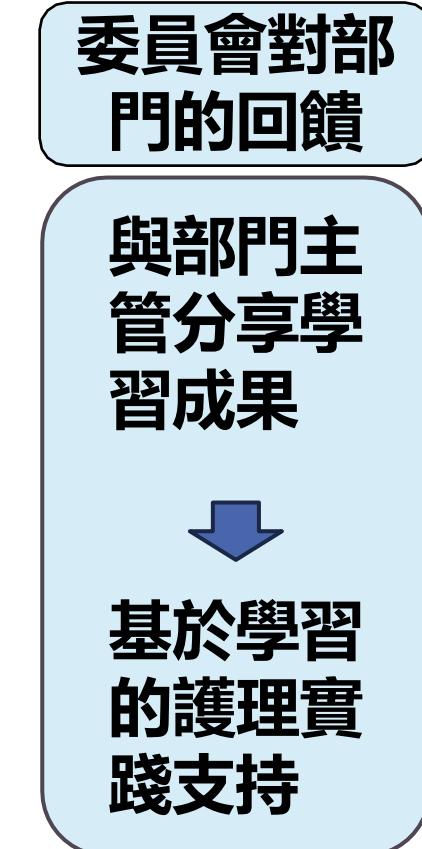
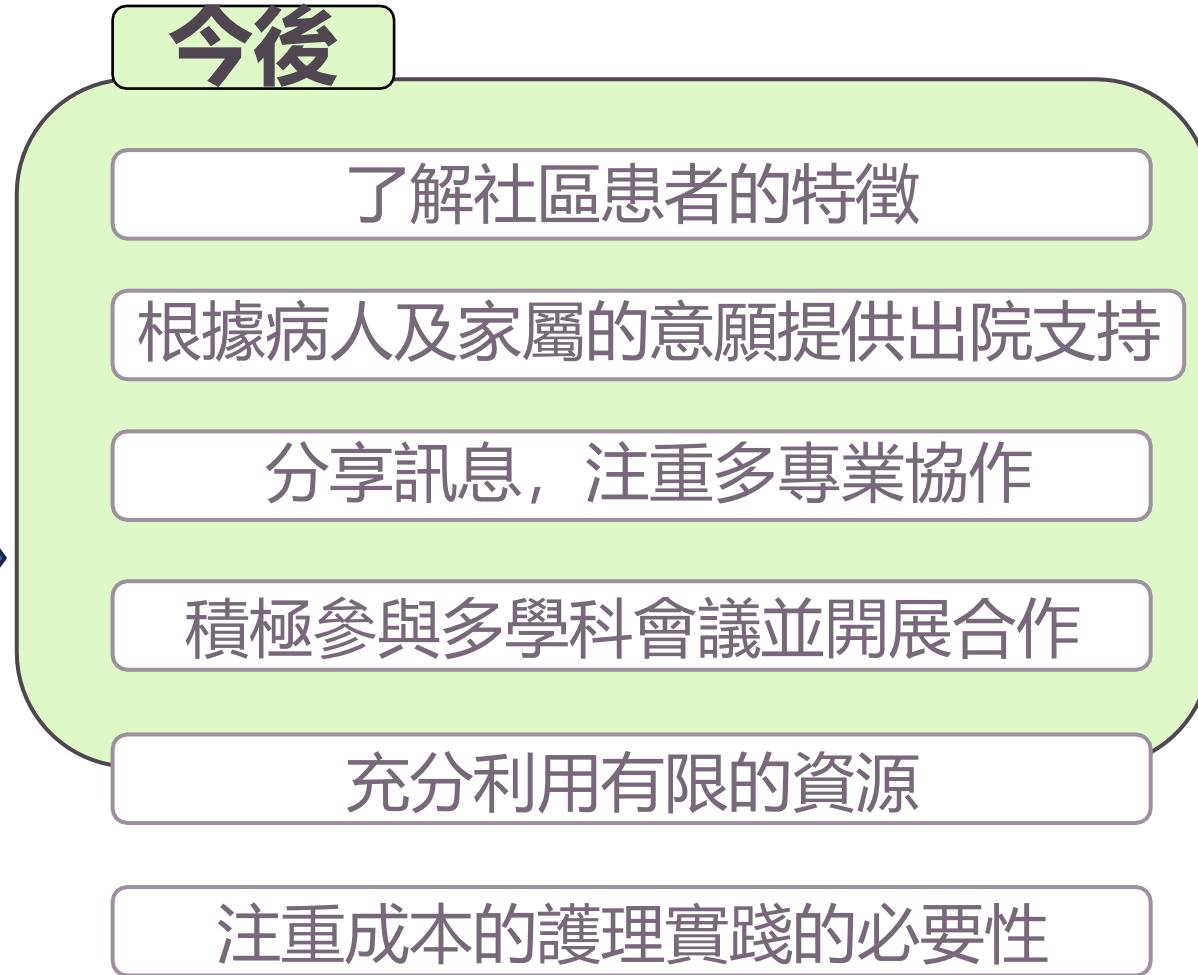
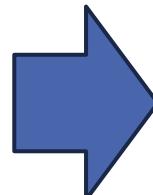
JADECOMでの研修の様子



研修で利用した繁体字版テキストの例

④ 對完訓者的後續支援

小組作業成果



2025年7月28日 欢迎会の様子

2025年7月28日
オサカナジャックにて
歓迎会



研修中の様子 中華の鉄人の店でランチ



2025年7月30日
赤坂四川飯店でのランチ
(中華の鉄人 陳建一の店)



中間発表会(ガバナー事務所)及びフェアウェルランチ会



2025年8月8日

神戸から帰京しガバナー事務所
にて中間発表会

その後紀尾井町の仏レストランで
打ち上げランチ会



部落之星

台日偏鄉醫學教育及政策制度的比較與前瞻研討會

石崇良 Chung-Liang Shih
衛生福利部部長

劉影梅 Ying-Mei Liou
國際扶輪3481地區24-25年度總監
國立陽明交通大學社區健康照護研究所特聘教授

岡山雅信 Okayama Masanobu
神戶大學大學院醫學研究科
社區醫療教育學部（醫學教育學科）教授

塚原太郎 Tsukahara Tarou
日本公益社團法人社區醫療教育學部
教育研修本部企劃總監、顧問

陳建良 Chien-Liang Chen
國立暨南國際大學護理暨健康福祉學院院長

簡莉盈 Li-Yin Chien
國立陽明交通大學護理學院院長

楊令穎 Ling-Yu Yang
國立陽明交通大學副教務長

劉介宇 Chieh-Yu Liu
國立陽明交通大學社區健康照護研究所所長

張原翊 Yuan-Hi Zhang
國立陽明交通大學醫學系副系主任

連心瑜 Shin-Yu Lien
長庚大學護理學系副教授

潘師典 Shih-Tien Pan
聯營奇美醫院急診醫學部緊急醫療系統科主任

邱如楨 Ru-Zhen Qiu
國立陽明交通大學研究生

陳 嶽 Hsi Chen
國立陽明交通大學研究生

潘韋廷 Wei-Ping Pan
國立陽明交通大學醫學生

吳品義 Pin-Hsi Wu
國立陽明交通大學醫學生

10/26
9:00~17:30
國立陽明交通大學活動中心表演廳

日本偏鄉醫學教育、政策成功經驗
邀請您共同打造台灣偏鄉健康的未來

國立陽明交通大學社會責任
Rotary District 2750
Rotary District 3481
Rotary 東京世田谷
Rotary Club of Taipei Ivy

部落之星 智慧偏鄉健康培力計畫
INTELLIGENT HEALTH FOR REMOTE AREAS

研修報告会&シンポジウム

部落之星

台日偏鄉醫學教育及政策制度的比較與前瞻研討會

時 間：於2025年10月26日（星期日）
上午9:00至下午5:30

地 點：國立台北交通大學活動中心表演廳
(台北市立農街二段155號)

主 題：聚焦台灣與日本偏鄉醫學教育的現況、政策制度的比較及未來發展，並安排專題分享與討論交流。

型 式：實體及線上雙軌

掃碼報名

RICH PROGRAM
Rural Innovative Care for Health

2025年10月26日 台北での研修報告会



心に残ったこと、学んだこと

- ・迷ったら基本に戻る
 - ✓ 「四つのテスト」および「戦略計画」
- ・実施国側、援助国側、協力団体は対等なパートナー
- ・TRFからの送金は基本「援助国側」（今回は「実施国側」）

参考 一戦略計画一

中核的価値観

Core Values

土台

奉仕 (Service)

私たちの主要な目的であり、根本にある価値観です。地域社会や国際社会に対して、職業や個人として貢献することを重視します。

親睦 (Fellowship)

多様な職業や文化を持つ人々が集まり、相互理解と友情を築きます。この人と人とのつながりが、ロータリーの活動を支える力となります。

多様性 (Diversity)

性別、年齢、民族、文化、職業など、あらゆる違いを尊重し、多様な視点を価値あるものとして受け入れます。

高潔性 (Integrity)

「四つのテスト」に代表されるように、誠実さと倫理的な行動を重視します。個人としても組織としても、高い道徳基準を維持します。

リーダーシップ (Leadership)

地域社会や職業において、模範となるリーダーシップを発揮します。また、次世代のリーダーを育成することも重要な使命です。

ビジョン声明

Vision Statement

目的

世界で 地域社会で
そして自分自身の中で
持続可能な良い変化を生むために
人びとが手を取り合って行動する
世界を目指しています

行動計画

Action Plan

手段

4つの優先事項

1. より大きなインパクト
2. 参加者の基盤拡大
3. 積極的なかかわり促進
4. 適応力の向上

「中核的価値観を土台にして、
「理想の未来（ビジョン）」へたどり着くために、
「4つの行動計画」を実行する

ご清聴ありがとうございました



ロータリー平和フェローシップ委員会

2025 - 26年度委員長 蓮見 雅則（東京三鷹RC）





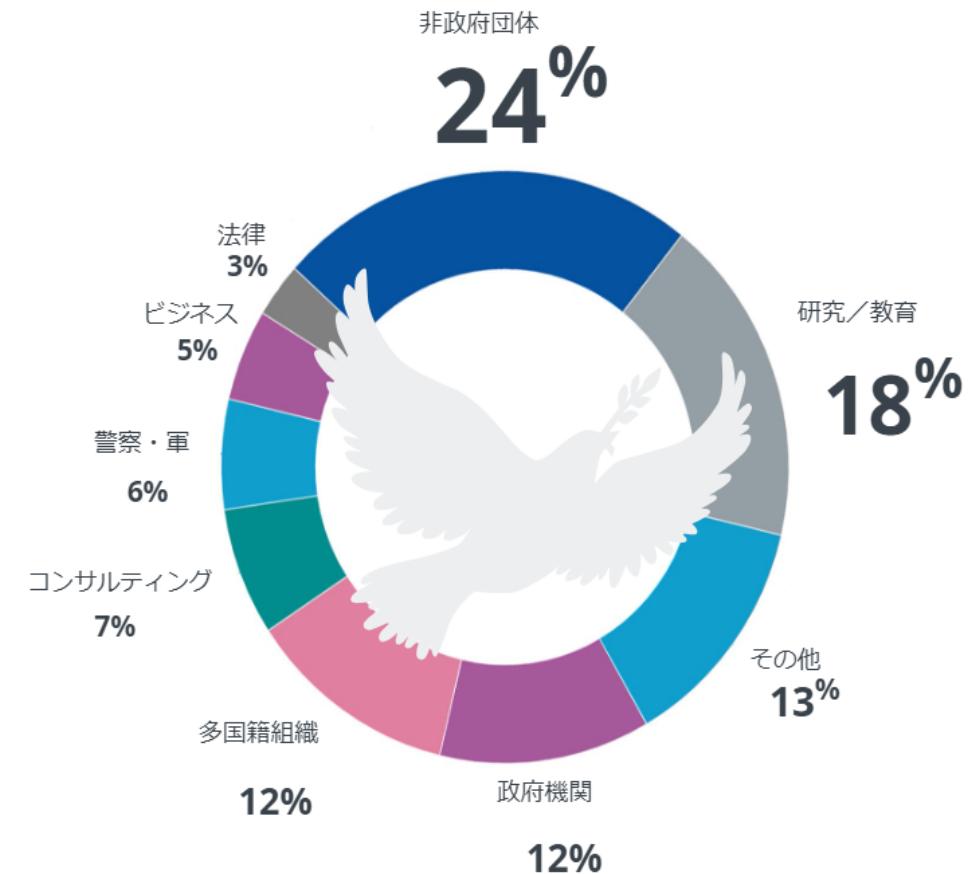
ロータリー平和センター プログラムとは

世界各地で**平和を推進し**、
紛争解決に貢献するリーダー“**平和フェロー**”を育成
することを目的とした**奨学金プログラム**です。

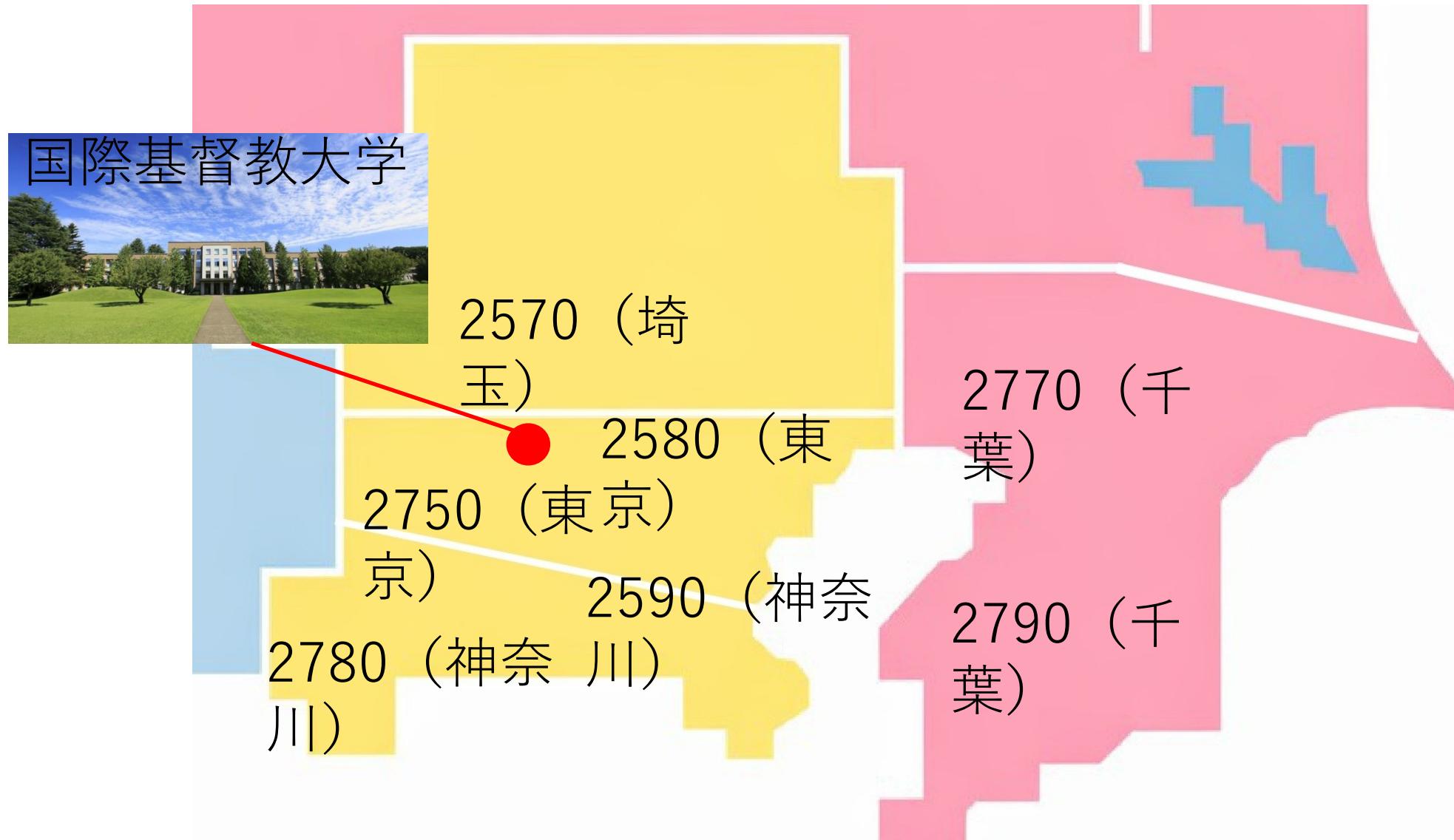
世界のロータリー平和センター



平和フェローシップ・プログラム



ホストエリアについて



2750地区の現役平和フェローとカウンセラー



サンボウ・モモ
ドウ
蓮見雅則（三鷹
RC）

マリナ・ネオピトウ
南條 勉（あけぼの
RC）

ヴィハエ・テジリアン
ジュ
澤 明美、黒田ポピー
(グローバルRC)

平和フェローたちの活躍



1800人以上の平和フェロー学友が、平和構築のために
115ヶ国以上で活躍しています。学友は、政府機関や教育・
研究機関、国際的組織（国連など）でリーダーとして仕事を
しています。



ロータリーファミリー・ホームカミングデー

Rotary Family Home Coming Day 2025-26 ロータリーファミリー・ホームカミングディ ～「平和」を、私の一步から考える～

ロータリーのさまざまなプログラムを通じて出会った学友・現役奨学生・ロータリアン・ローター・アクターが、世代やプログラムの枠を超えて“ファミリー”として再びつながる一日
「平和」をテーマに、感じ、考え、語り合う参加型イベントです

Talk Session 学友・平和フェロー・交換留学生による「平和」へのメッセージ
Messages on peace from Rotary alumni, Peace Fellows, and Youth Exchange students

Special Performance 地球のステージ 公演 ライブ音楽×映像×語り
Stage of the Earth Live music × visuals × storytelling

Workshop 「私の平和の第一歩」 "My First Step Toward Peace"

2026年5月16日（土）13:30～
受付開始 13:00

六本木ヒルズ ハリウッドホール
ハリウッド大学大学院・美容専門学校 講堂
港区六本木6-4-1

ロータリーファミリー全員が対象（ご家族・友人も大歓迎！）
ロータリアン、ローター・アクター、インター・アクター、RYLArian、
ROTEX、各種奨学生（財団・平和・米山）および学友の皆様

登録料 ロータリアン 5,000円
社会人（学友・同伴家族等） 2,000円
学生（現役奨学生・インター・アクター等） 無料



【お申込み方法】 締切：3月27日（金）
URL: <https://forms.gle/qiFEi3DjXjKYBZXg6>

*無料対象の方も、席数確保のため必ず事前登録をお願いします

【振込先】 三井住友銀行 都立大学駅前支店 普通 1846224

口座名義：ロータリーファミリー支援委員会委員長 青柳薫子

*事務手続きの都合上、2022-23年度委員長名義となっております

主催 國際ロータリー第2750地区 ロータリーファミリー支援委員会

共済 公共イメージ委員会・ローター・アクト委員会・青少年奉仕委員会

ロータリー財団委員会・米山記賛学委員会

協力 学校法人メイ・ウンヤマ学園 ハリウッド美容専門大学校



よいことの
ために
手を取りあおう

国際ロータリー第2750地区 2025-26年度

財団セミナー

休憩

開始までお待ちください



国際ロータリー第2750地区 2024～25年度

財団セミナー

第2部

財団の変革と
ハンガリーの活動について



補助金活用の仕方

2025 - 26年度委員長 勝山宏則（東京品川RC）



現在の問題点と改善策

- 昨年度はDGが枯渇しました。今年度はDGとGGの両方が枯渇しました。利用上限額を見直して、皆さまが利用できるようにいたします。
- これはDGとGGの申請数の増加が想定以上になっているからです。
- 第2750地区の寄付額は増えてきていますが、円安の影響でドル建ての寄付額が減ってきています。2021年に発表されたTRFの『資金モデルの変更』により繰越金が5年間までになりました。
そのために累積の黒字が少なくなり使用できる資金が減少しました。

- DG 地区補助金 District Grant
- GG グローバル補助金 Global Grant

【資金モデルの変更】

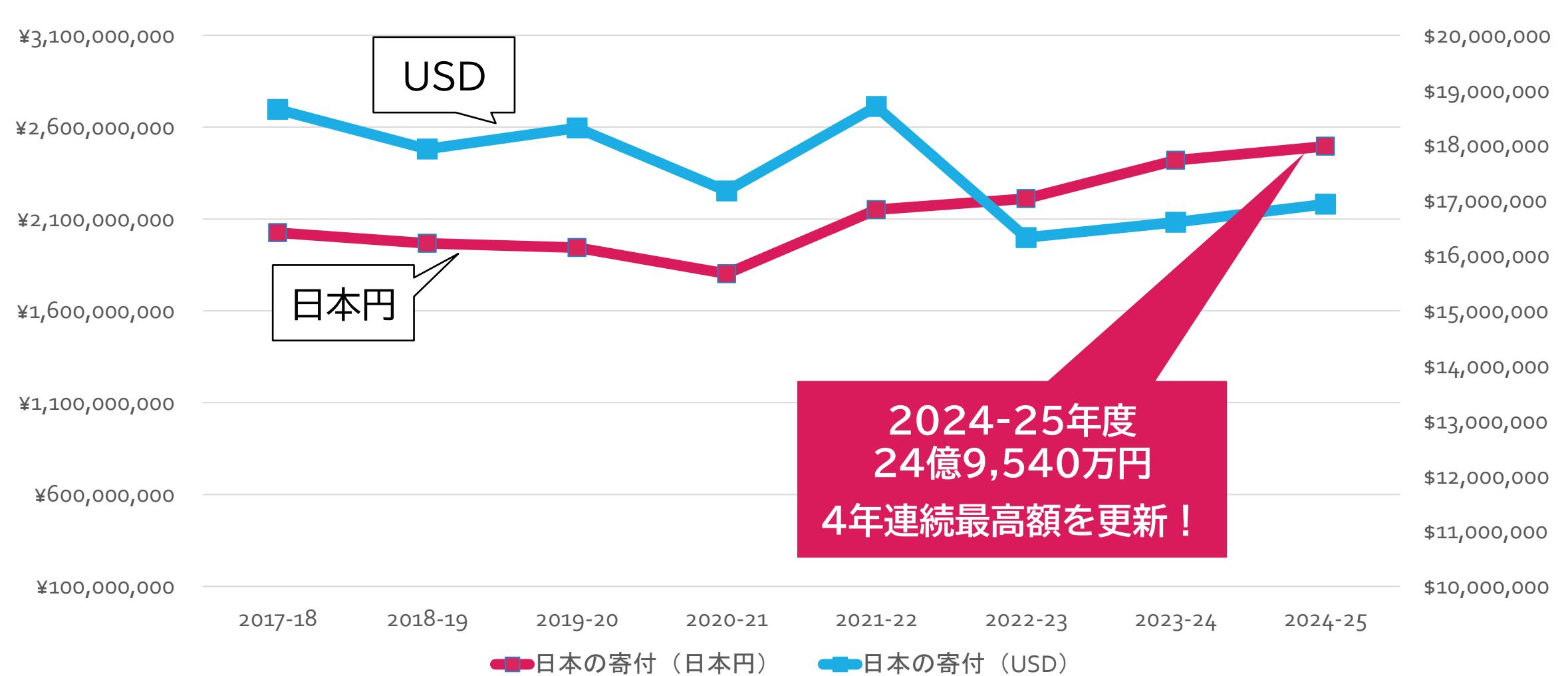
グローバル補助金は、2013-14年度の導入以来、大きな成功を収めてきた。初年度には868件、4,730万ドルの補助金が授与されたのに対し、2019-20年度には1,359件、9,560万ドルにまで増加した。グローバル補助金授与額の増加率が100%を超える一方で、同補助金の主な資金源である年次基金への寄付がこのペースに追いついていない。その結果、グローバル補助金への需要が、利用可能な資金を大きく上回っている。

これに加え、財団は、新型コロナウイルスがもたらした前例のない課題に取り組むため、2020年3月以来、コロナウイルス対応のプロジェクトに対し、災害救援補助金として3,200万ドルを授与した。

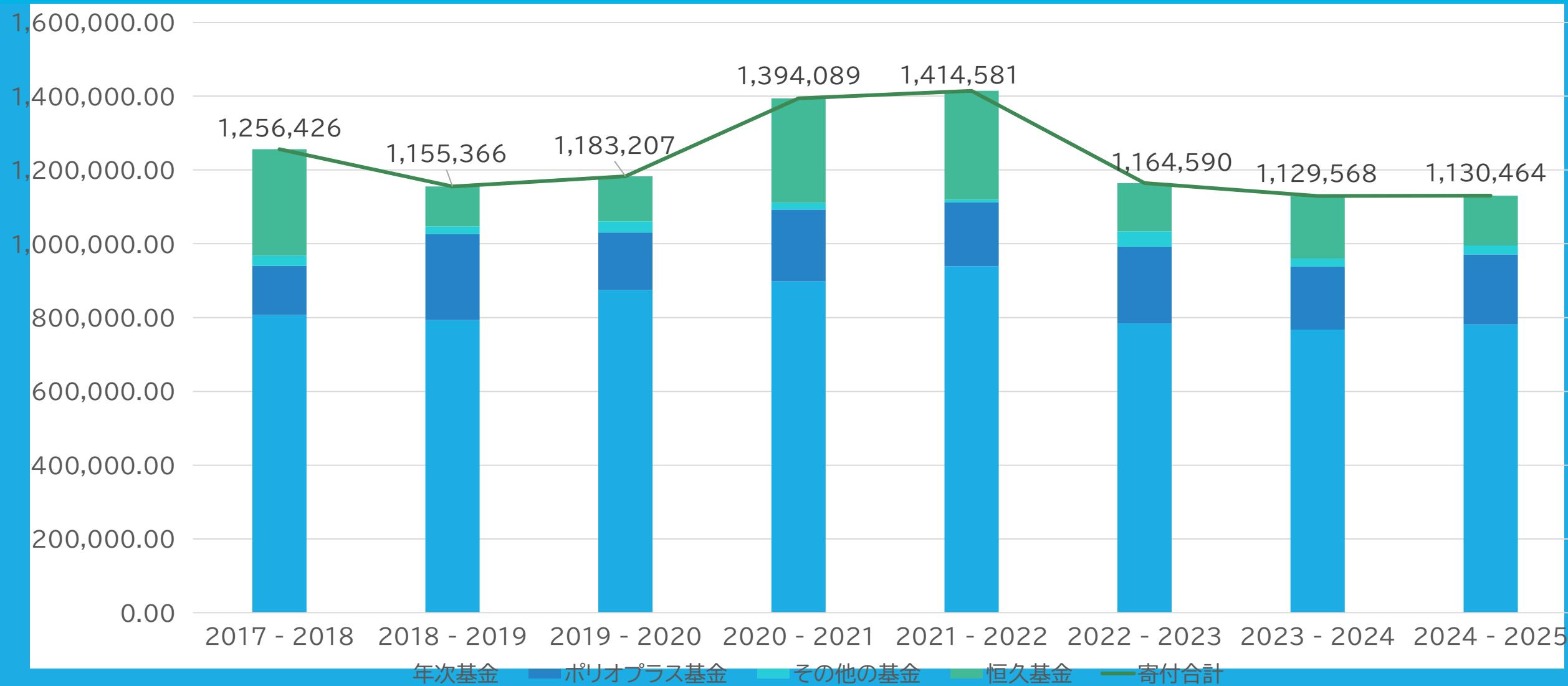
グローバル補助金のために各年に使用可能な国際財団活動資金 (WF) の額は、主に年次基金への寄付によって決まる。過去数年間、ロータリーの最優先活動に必要な資金源であるWFは、各年度末を待たずして枯渇しており、結果として、多くの補助金申請に資金が授与できない状況となっている。財団は今年度、グローバル補助金に使用できる資金を増やすため、数々の経費削減策を取った。また、管理委員会とR I 理事会は、財団の運営準備金とR I 予算剰余から1,500万ドルを国際財団活動資金 (WF) に充てた。これにより合計で2,000万ドル近い追加資金が今年度に使用可能となったが、それでも需要に応えるのに十分ではない。管理委員会は、グローバル補助金の需要の高まりから、今年度だけでなく今後も資金不足が生じると予測している。

ロータリー財団は、グローバル補助金における需要と供給のバランスを図ることを目的に、方針上の変更を承認した。

ロータリー財団への寄付 日本の寄付



第2750地区の寄付(USD) 過去8か年

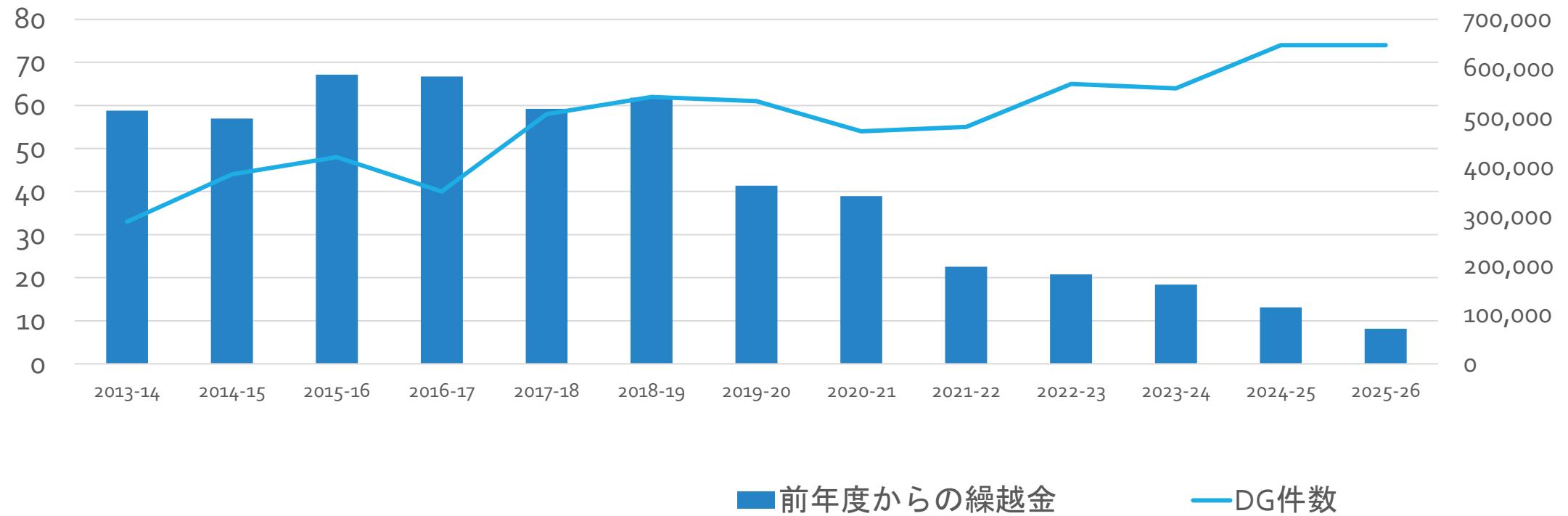


年度別のDG件数と年次基金、繰越金、DDF寄贈額の推移

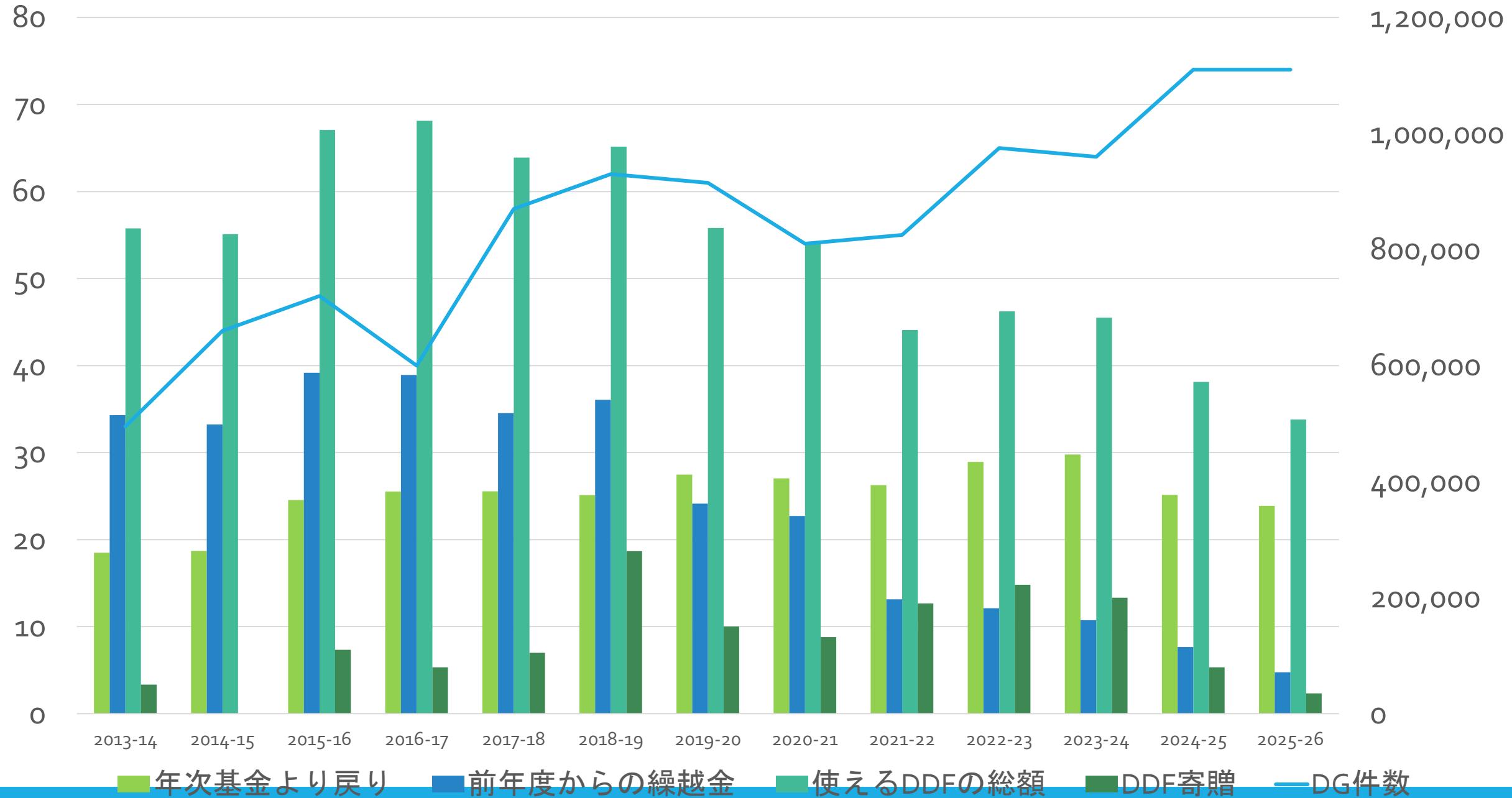
	DG件数	年次基金より戻り	前年度からの繰越金	使えるDDFの総額	DDF寄贈	ガバナー
2013-14	33	277,323	514,552	836,282	50,000	舟木年度
2014-15	44	280,339	498,455	826,572	0	坂本年度
2015-16	48	368,004	587,476	1,006,147	110,000	水野年度
2016-17	40	382,881	583,756	1,021,744	80,000	大槻年度
2017-18	58	383,140	518,087	958,345	105,000	猿渡年度
2018-19	62	376,873	540,794	977,392	280,000	服部年度
2019-20	61	412,146	361,872	836,956	150,000	淺田年度
2020-21	54	405,570	340,661	813,503	132,000	福原年度
2021-22	55	393,737	197,262	661,210	190,000	三浦年度
2022-23	65	434,043	181,712	693,590	222,000	富澤年度
2023-24	64	446,801	161,215	682,395	200,000	宮崎年度
2024-25	74	377,086	114,910	571,904	80,000	伊藤年度
2025-26	74	358,238	71,172	506,833	35,000	田中年度
2026-27						武藤年度

DG件数は増えたがDDF繰越金は減少

DG件数と前年度繰越金（ドル） RID2750



DG件数とDDF総額(ドル) RID2750



次年度からの制度変更

- 次年度ロータリー財団ハンドブックはPDF版のみになります。
- 補助金申請のためのガイドブックを配布します。PDF版も用意。
- 地区補助金の上限計算式を変更します。
- クラブ拠出金は総予算の 30 %を必須とします。
- DG申請期間は 4 月 1 日～5 月 15 日に短縮。

- グローバル補助金はクラブ拠出金の 5 倍の DDF。
- DDF 上限は原則として 1 万 5 千ドル、大型案件は 2 万 5 千ドル。
- 協同提唱者の場合の DDF 上限は 1 万ドル。
- GG の申請は 1 クラブにつきプライマリースポンサー 1 件まで、別に共同提唱者 1 件まで。ロータリー財団奨学生スポンサーはカウントしません。

シェアシステムによる寄付金の配分

2026年1月作成
RID2750

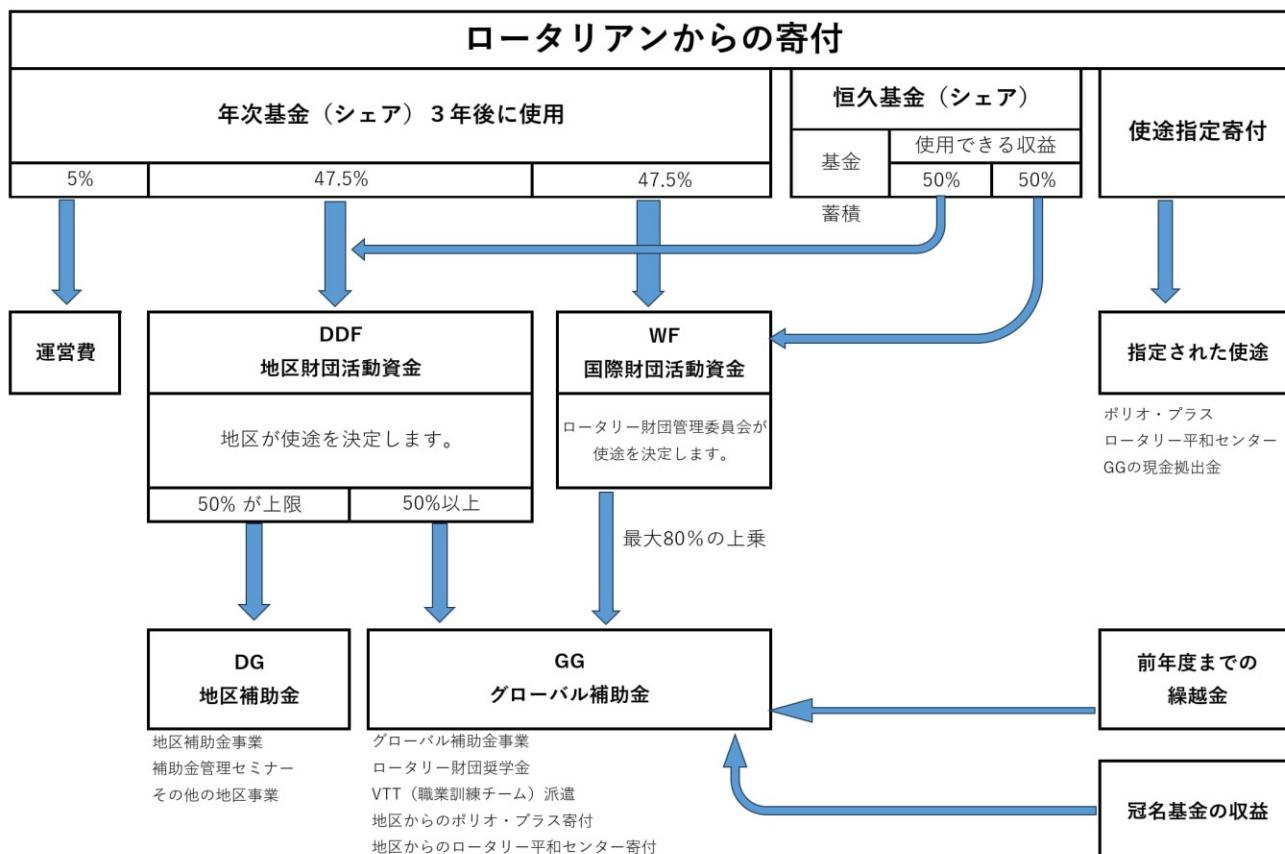
年次基金（シェア）の寄付は3年間運用され元本部分が47.5%ずつDDFとWFに配分されます。

残りの5%は運営費（寄付推進費と一般管理運営費）になります。

恒久基金（シェア）の使用できる収益は50%ずつDDFとWFに分配されます。

地区が使用できる資金として戻ってくる寄付は年次基金（シェア）と恒久基金（シェア）と冠名基金だけです。

DDF: District Designated Fund WF: World Fund DG: District Grant GG: Global Grant VTT: Vocational Training Team



国際奉仕を行なうための補助金

・地区補助金を活用した国際奉仕

メリット: 地区に申請をすれば良いので比較的申請が簡単

デメリット: 金額が少額なので、大きなプロジェクトには向かない。
その年度に終了しなければならぬので、期間が短い。

・グローバル補助金を活用した国際奉仕

メリット: 地区 DDF からの補助金にロータリー財団本部からの補助金が出るので、少ない拠出金で多額な資金を使うことができる。

デメリット: 申請が難しい。ロータリー財団本部に申請書を提出
実施国のロータリークラブにホストクラブになってもらい、共同でプロジェクトを行なわなければ
ならない。

事前にモニタリング調査を行わなければならない。

基本的には、補助金の承認から1年間で実施。ただし、中間報告書を提出すれば延長は可能

グローバル補助金

(例) 予算額: 30,000 米ドルの場合

クラブ／地区／他		現金(\$)	DDF (\$)	WF予定額(\$)
実施国	RID ●●●● DDF		1,000	800
		0		0
援助国	RID ▲▲▲▲ DDF		14,000	11,200
	RID ▲▲▲▲ ○○ RC	3,000		0
合 計		3,000	15,000	12,000
総合計		30,000		

WF の予定支給額: DDF 額の 80%、現金拠出額に対しては 0% である。

補助金利用のヒント

- ・過去の様々な事例を参考にする。
- ・海外クラブと交流をしてGGに挑戦する。
- ・他クラブに事例を教えてもらう。
- ・地区研修会、奉仕研究会の事例報告を聞く。
- ・補助金委員に相談する。
- ・財団と補助金に関する最新の情報を入手する。

ご清聴ありがとうございました。

2026年2月2日

ウクライナ避難民支援第4弾と ハンガリー100周年式典参加の ご報告

2025-26年度 地区幹事／東京山王RC
道田 淳



これまでのウクライナ避難民支援の経緯

2022-23 年度 DG 準備金を活用し、ポーランド支援団体経由で支援物資

3名：ロータリアン 1名 + RAC2名 + 日本の支援団体 1名

2023-24 年度 DG 準備金を活用し、ポーランド支援団体経由で支援物資

6名：ロータリアン 4名 + 在 EU 財団奨学生 2名

2024-25 年度 クラブ資金で PC20 台、有志で画材等をハンガリー避難民学校

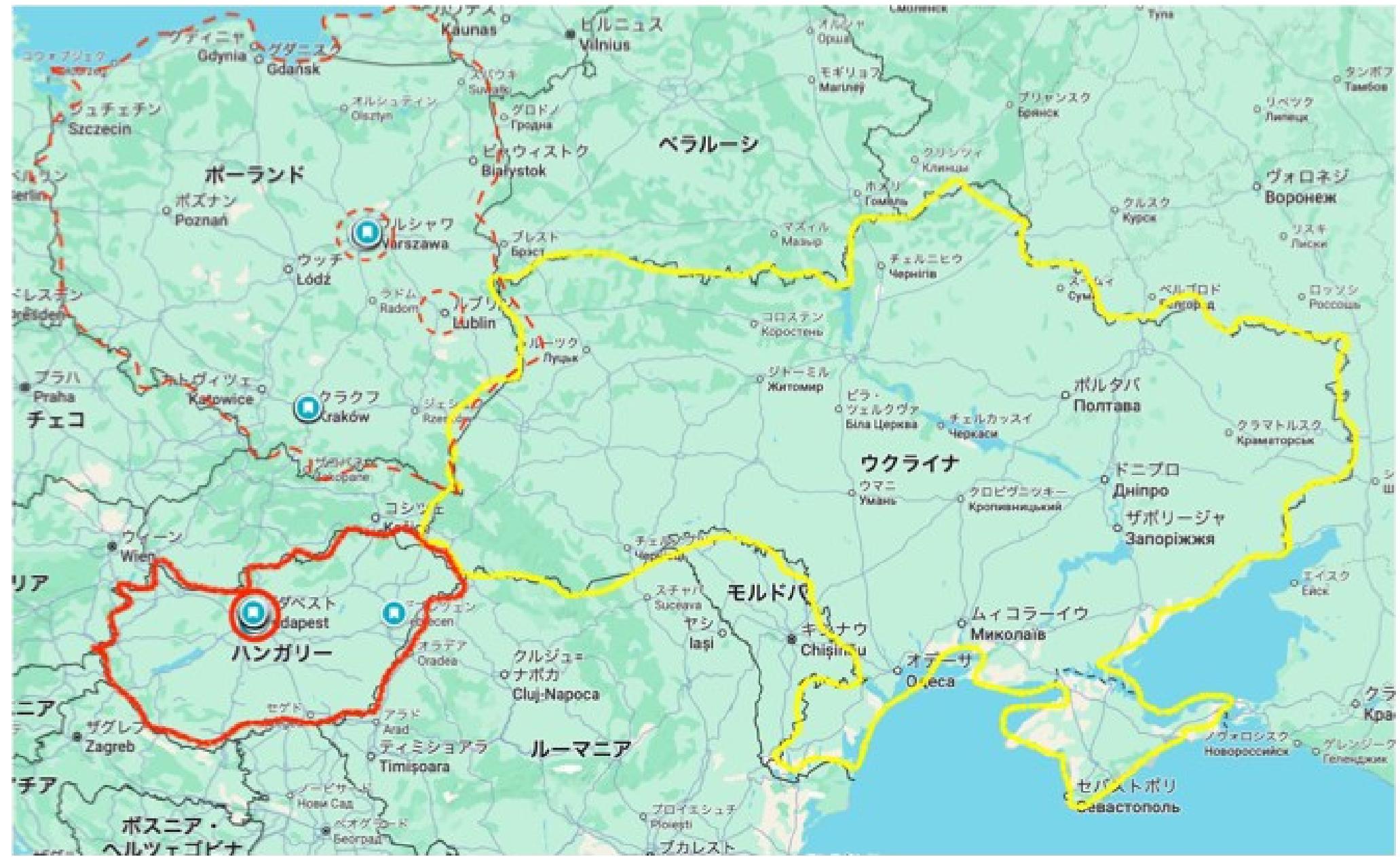
9名：ロータリアン 7名 + 在 EU 財団奨学生 2名

2025 年 11 月 27 日～12 月 2 日

2025-26 年度 GG でハンガリー避難民学校を支援協議、100 周年記念式典に参加

12名：田中ガバナーを筆頭にロータリアン 10名

+ 在 EU 財団奨学生 1名 + 在ハンガリー交換留学生 1名





2023-24 年度 ルブリン市内にある協力団体 Help for Ukraine の倉庫



2023-24 年度 ウクライナ避難民の母子 95 名が暮らす養護施設



2023-24 年度 ワルシャワ市内にある協力団体 Wolna Ukraine に物資支援



2024-25 年度 ウクライナ避難民学校を訪問／校長先生、ガバナーと記念撮影



2024-25 年度 ウクライナ避難民学校を訪問／富士山をテーマに美術授業を実施



2025-26 年度 ハンガリー・ウクライナ・バイリンガル初等中等学校を視察／ 文具、数独本を寄贈



2025-26 年度 観察後に会議／ 1911 地区ガバナー、財団委員長、デブレツェン RC と GG 協議

1911 地区と 2750 地区が共同で実施する
平和推進の地区プロジェクト概要

□ グローバル補助金での支援内容

「ハンガリーとウクライナのバイリンガル初等中等学校」では生徒数が400名を超え、心理面でも物理面でも様々な支援が不足しています。以前からニーズのあった[心理ケアプログラム](#)のほか、バイリンガル（ウクライナ、ハンガリー、英語）での教育を浸透させるためにスマートボード（電子黒板）など[教育機材の充実](#)も選択肢としてあるようです。

田中年度の重点事項の一つである「**平和推進**」を念頭に、1911地区ならびに実施国側のデブレツェンRCと持続的効果を生む支援となるようプロジェクトを進めて参ります。

□ 補助金番号 GG2690289

Modern Tools for the Students of the Hungarian-Ukrainian School in Budapest

実施国側 ハンガリー、ブダペスト RI 1911地区・Debrecen RC

資金提供国側 日本、東京 RI2750地区・東京山王RC

本プロジェクトに参加するRI 2750地区下記の12クラブ

小金井RC、クロスシティRC、中央新RC、山の手RC、あけぼのRC、日本橋RC、

武藏府中RC、中央RC、成城新RC、自由が丘RC、愛宕RC、山王RC

□ 各クラブ拠出金&プロジェクト予算

参加費用（クラブ拠出金）：1,000ドル／各クラブ共通

プロジェクト予算：合計66,000ドル～

内訳：クラブ負担1.2万ドル+地区DDF3万ドル+WF2.4万ドル=合計66,000ドル

2025年11月29日 RI1911地区

ハンガリー100周年記念式典

= ハンガリーにロータリーが誕生して100周年を祝う式典

* Budapest RCは1926年、Debrecen RCは1928年創設

<プログラム>

10:00-11:00 受付

11:00-11:10 開会式

11:10-11:15 ユリア・モルナール ガバナーによる歓迎の辞

11:15-11:20 ジョン・ヒューコ国際ロータリー事務総長による挨拶

11:20-11:30 ミクローシュ・チェリPDG：ハンガリーにおけるロータリー100周年の歴史的評価

11:30-11:35 デブレツェン・ロータリークラブ元日本人交換留学生、ピアニスト天野世梨さんによる演奏

11:35-11:40 小野日子・駐ハンガリー日本国特命全権大使による挨拶

11:40-11:50 オペラ歌手ノーラ・ドゥチャ氏（ブダペスト・ブダヴァールRC）と
ピアニストのシャーポルチ・シャーンドル氏による演奏(RCブダペスト-マルギットシゲット)

11:50-12:00 インビジブル・プレゼンテーション
：アーリーアクト、インターラクト、ローターアクトクラブ会員による合同プレゼンテーション

- 12:00-12:10 イロナ・ベンゼスPDG：ロータリーファミリーの完全性
- 12:10-12:15 フランチェスコ・アレツォ 2025/2026年度国際ロータリー会長挨拶
- 12:15-12:20 100周年ブダペスト・ロータリークラブへの証明書授与式、
エステル・カモクサイ・ベルタ ブダペスト・ロータリークラブ会長スピーチ
- 12:25-12:40 シンギング・ロイヤーズ・ブダペストによるパフォーマンス
- 13:00-13:05 ダニエル・タナセ ゾーンディレクターによる歓迎の挨拶
- 13:05-13:10 乾杯 — ヴァルター・エブナー（ゾーンコーディネーター）、イムレ・コヴァーチPDG
- 13:10-14:00 昼食
- 14:00-14:10 インビジブル・プログラム（ナジ・ギュラ氏によるプレゼンテーション）、
ギフト・オブ・ライフ・プログラム（カルサイ氏によるプレゼンテーション）s
- 14:10-14:30 クラブへの修了証授与
- 14:30-15:00 海外地区歓迎挨拶
- 第2750地区・田中 靖ガバナーによる挨拶**
- 1911地区と2750地区による平和推進に関する基本合意文書の調印式**
- 15:00 閉会の辞





100 ÉVES
A MAGYAR ROTARY
ÜNNEPI CHARTER

HUNGARIAN ROTARY IS 100 YEARS OF
CELEBRATORY CHARTER



ONO HIKARIKO

The Japanese Ambassador

WELCOME SPEECH









Memorandum of Cooperation

Rotary International District 1911 Hungary – Rotary International District 2750 Japan (Metropolitan Tokyo Region)

Preamble

Rotary International District 1911 Hungary and Rotary International District 2750 Japan (Metropolitan Tokyo Region) reaffirm their dedication to advancing the ideals of Rotary International, including fellowship, mutual understanding, and humanitarian service. Guided by the principle of international goodwill and united by Rotary's core motto, "Service Above Self."

The Parties express their shared commitment to promoting peace, supporting youth, and strengthening communities through collaborative service.

1. Purpose of the Agreement

The Parties agree to jointly support the Hungarian-Ukrainian Bilingual Primary and Secondary School (1212 Budapest XXII. kerület, 8. Rákóczi Ferenc út 121-123.), with the aim of improving the quality of education and promoting the well-being of students and educators.

2. Main Areas of Support

2.1. Provision of Physical and Educational Equipment

- classroom furniture and educational materials;
- digital devices supporting modern learning;
- resources contributing to the school's daily operational needs.

2.2. Mental Health and Psychological Support

- mental health programs and developmental activities for students;
- support in accessing psychological services;
- programs aimed at enhancing teachers' mental well-being.

3. Framework of Cooperation

In the spirit of Rotary fellowship and in accordance with Rotary International policies, the Parties agree to:

- hold regular consultations and maintain ongoing dialogue to ensure the successful preparation and implementation of cooperative activities;
- appoint official liaison officers (contact persons) responsible for facilitating communication and coordination between the Districts;
- conduct all activities in alignment with the Rotary International Constitution, Bylaws, and the Rotary Code of Policies;

- ensure the transparent documentation, reporting, and communication of all joint actions undertaken within the framework of this Agreement;
- maintain transparent documentation of cooperative actions and outcomes.

4. Duration and Amendments

This Agreement enters into force upon signature by both Parties. In accordance with Rotary International norms for inter-district cooperation, it remains valid for an indefinite period and may be amended or terminated by mutual consent. The Parties also express their readiness to continue and further expand their cooperation in the future.

5. Contact Persons

District 1911 Hungary:

Name: Bogdán Klára Réka
Title: 2025-26 President of RC Debrecen

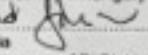
District 2750 Japan:

Name: Jun Michita
Title: District Secretary of RI District 2750

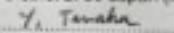
6. Signatures

The Parties declare that they have read and approved this Agreement.

Rotary International District 1911 Hungary

Signature: 
Name: Molnár Júlia
Title: 2025-26 Governor of RI District 1911
Date: Budapest, November 28, 2025

Rotary International District 2750 Japan (Metropolitan Tokyo Region)

Signature: 
Name: Yasushi Tanaka
Title: 2025-26 Governor of RI District 2750
Date: Budapest, November 28, 2025

This Agreement is executed in two original copies of identical content, one retained by each District.

基本合意文書

ロータリー国際地区 1911 ハンガリー ・ ロータリー国際地区 2750 日本（東京）

前文

ロータリー国際地区1911ハンガリーとロータリー国際地区2750日本（東京）は、フェローシップ、相互理解、人道支援など、国際ロータリーの理想を推進するためのコミットメントを再確認します。国際的な善意の原則に導かれ、ロータリーのコアモットーによって統一されています。

「自己よりも奉仕する」締約国は、[平和を促進し、若者を支援し、共同サービスを通じてコミュニティを強化する](#)という共通のコミットメントを表明します。

1. 契約の目的

両当事者は、[ハンガリーとウクライナのバイリンガル初等中等学校](#)（1212年ブダペストXXI. kerület、II.）を共同で支援することに合意した。Rákóczi Ferenc út 121-123.）、教育の質を向上させ、学生と教育者の幸福を促進することを目的としています。

2. 主なサポート分野

2.1. 物理的および教育的機器の提供

- ・ 教室の家具と教材;
- ・ 現代の学習をサポートするデジタルデバイス。
- ・ 学校の日常的な運営ニーズに貢献するリソース。

2.2. メンタルヘルスと心理的サポート

- ・ 学生のためのメンタルヘルスプログラムと発達活動;
- ・ 心理サービスへのアクセスのサポート;
- ・ 教師の精神的幸福を高めることを目的としたプログラム。

3.協力の枠組み

- ロータリーフェローシップの精神に基づき、国際ロータリーの方針に従い、締約国は以下に同意する。
- 定期的な協議を行い、継続的な対話を維持し、協力活動の準備と実施を成功させる。
 - 地区間のコミュニケーションと調整を促進する責任を持つ公式連絡官（連絡担当者）を任命する。
 - ロータリー国際憲法、細則、ロータリー政策規定に沿ってすべての活動を行う。
 - この協定の枠組みの中で行われるすべての共同行動の透明な文書化、報告、およびコミュニケーションを確保する。
 - 協力的な行動と結果の透明な文書を維持する。

4.期間と修正

この協定は地区間協力に関する国際ロータリーの規範に従って、両当事者の署名により発効します。[無期限に有効](#)であり、相互の同意により修正または終了することができます。締約国はまた、今後も協力を継続しさらに[拡大する用意](#)があることを表明している。

5.連絡先

- 地区 1911 ハンガリー: ボグナール・クララ・レカ 2025-26 RCデブレツェンの会長
- 地区 2750 日本: 道田 淳 RI地区2750の地区幹事

6.署名

両当事者は、本契約を読み、承認したことを宣言します。

ロータリー国際地区1911ハンガリー 署名:

名前: モルナール・ジュリア 2025-26 RI 1911地区ガバナー

日付: ブダペスト、2025年11月28日

国際ロータリー地区2750（首都圏） 署名:

名前: 田中靖 2025-26 RI 2750地区ガバナー

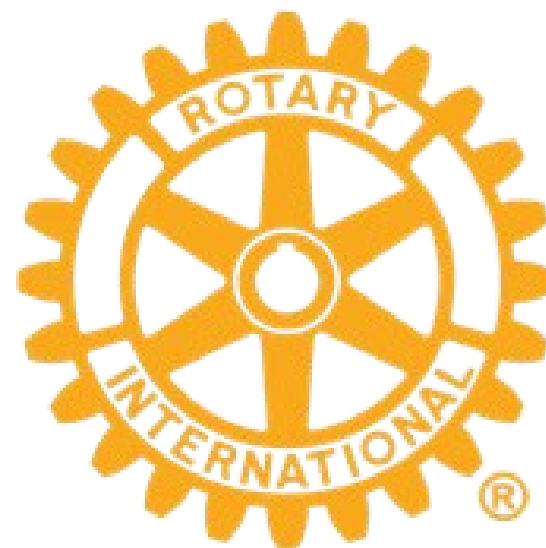
日付: ブダペスト、2025年11月28日

本契約は、同一の内容の2つのオリジナルコピーで実行され、1つは各地区によって保持されます。

世界で良いことをしよう

Doing Good in the World

The
Rotary
Foundation



国際ロータリー第2750地区 2025-26年度
財団セミナー

質疑応答



国際ロータリー第2750地区 2025-26年度

財団セミナー

閉会の辞

柳邦明 財団副委員長



国際ロータリー第2750地区 2025-26年度

財団セミナー

閉会

ご参加ありがとうございました

